MUSASHINO
CITY

令和８年度　武蔵野市

中学生議会会議録

令和８年８月16日



MUSASHINO
CITY

令和８年度　武蔵野市

中学生議会
会議録

令和８年８月16日

令和８年度　武蔵野市中学生議会　会議録

目　次

１　実施要領 …… １
２　参加者名簿 …… ２
３　日程表 …… ３
４　議事日程 …… ４
５　席次表 …… ５
６　会議録 …… ６
　（１）　第四中学校 …… １０
　（２）　第五中学校 …… １５
　（３）　第一中学校 …… ２２
　（４）　第三中学校 …… ２８
　（５）　第二中学校 …… ３３
　（６）　第六中学校 …… ３９
７　当日発表資料 …… ４６
８　アンケート結果 …… ５９
９　ミーティング・当日写真 …… ６３

議長あいさつ

議長　木﨑　剛



皆さんこんにちは。本日は、３回目の中学生議会を開催させていただきました。多くの皆さんが応募していただいて、今日も第一中学校から第六中学校まで、各中学生議員の皆さんが、いろいろな角度から、市に対して、自分たちの意見、そして提案をしていただけるということで、大変興味深く、そしてまた、私たち、いわゆる大人が考えている目線ではないところでの意見がいただけるのではないかということで、大変関心を持って聞かせていただければと思います。

そして、議会といたしましても、市民の皆さんからしっかりと様々な御意見をいただくという意味では、先ほども申し上げた大人だけではなく、青少年の意見というのもしっかりと市政に反映できるように取り組んでいきたいというような形で、こういう会を開催させていただいております。

そして、今回も議会で開催をさせていただいておりますけれども、市長をはじめ、教育長も御出席をいただきまして、ありがとうございます。また、学校関係者の皆様にも大変お世話になりまして、ありがとうございます。今回、５月からスタートし約３か月、中学生議員の皆さんが様々な形で検討していただいた提案、意見を述べていただき、こちらに座っている市議会議員が答弁をさせていただきます。しっかりと皆さんの意見をつなぎながら、この武蔵野市がさらによりよくなるようにと思っておりますので、ぜひ今日も堂々と自分の意見をこの場で述べていただいて、この先の武蔵野市が発展することを祈念して、議長の挨拶とさせていただきます。今日も一日よろしくお願いいたします。

令和８年度　武蔵野市中学生議会　実施要領

１　目的

次世代を担う中学生たちに地方行政や地方議会を理解してもらい、中学生たちが考える意見を市政などに反映すること。

２　開催日時・場所

令和８年８月16日（日曜日）　午後２時から４時まで

武蔵野市役所７階　武蔵野市本会議場

３　参加者

市立中学校６校の生徒　15人、市議会議員　21人、市長、教育長

４　当日までのスケジュール

日付	時間	場所	内容
令和８年 ５月27日 （水曜日）	午後４時30分から ６時30分まで	議会委員会室	**第１回ミーティング** 〇議会運営委員会委員の自己紹介 〇中学生議会の趣旨説明 〇Gikaiクイズ 〇中学生議員の自己紹介 〇グループワーク 学校ごとにプレゼンテーマの検討 他校との意見交換
令和８年 ７月８日 （水曜日）	午後４時から ６時まで		**第２回ミーティング** 〇グループワーク 学校ごとにプレゼンテーマ決定 プレゼン資料作成

５　当日の日程

① 開会挨拶（議長）→　② 中学生議会開会（議長）→　③ 来賓挨拶（市長及び教育長）→　④ 一般質問（学校ごと）→　⑤ 答弁（議員）→　⑥ 中学生議会閉会（議長）→　⑦ 閉会挨拶（副議長）→　⑧ 記念撮影

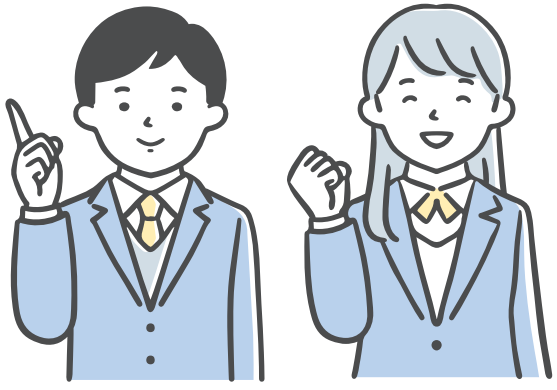
６　その他

中学生議会の企画運営は議会運営委員会委員（川名ゆうじ、宮代一利、東山あきお、落合勝利、菅源太郎、与座武、橋本しげき、山本ひとみ）により実施し、中学生議会当日の答弁も行った。

また、市教育委員会及び市立中学校校長会の協力をいただいた。

令和８年度　武蔵野市中学生議会　参加者名簿

学　　校	学年クラス	氏　　名	ふりがな
武蔵野市立第一中学校	２年Ｃ組	松　田　　倫	まつだ　りん
	３年Ｃ組	新　井　　純	あらい　じゅん
武蔵野市立第二中学校	３年Ｄ組	藤　本　　廉	ふじもと　れん
	３年Ａ組	古　賀　　俊　也	こが　しゅんや
	３年Ｄ組	岡　本　　美　咲	おかもと　みさき
武蔵野市立第三中学校	２年２組	藤　井　　恵　太	ふじい　けいた
	２年３組	中　村　　悠　杏	なかむら　ゆあ
	２年Ｉ組	玄　番　　大　輝	げんば　たいき
武蔵野市立第四中学校	３年３組	田　中　　花	たなか　はな
	３年３組	福　山　　由　彩	ふくやま　ゆい
武蔵野市立第五中学校	２年Ａ組	永　井　　大　葵	ながい　だいき
	２年Ｂ組	富　澤　　悠　里　江	とみざわ　ゆりえ
	２年Ｃ組	藤　井　　一　輔	ふじい　かずほ
武蔵野市立第六中学校	２年Ａ組	青　木　　俊　二	あおき　しゅんじ
	２年Ａ組	鈴　木　　琢　斗	すずき　たくと



令和８年度　武蔵野市中学生議会　日程表

会期一日間

月 日	曜日	開議時刻	会議名	会議室	付議事件
8.16	日	14：00	本会議	本会議場	一般質問

議事日程

令和８年８月 16 日（日曜日）午後２時　開議

第１　会期の決定

第２　諸報告

第３　一般質問

１　武蔵野市内の中学校同士の交流についてと交通について

第四中学校
８番　田中　　花　君
９番　福山　由彩　君

２　学校遠足、防災宿泊、学校の土日開放等について

第五中学校
10 番　永井　大葵　君
11 番　富澤悠里江　君
12 番　藤井　一輔　君

３　五日市街道の道幅拡張、ゆったり過ごせる給食時間について

第一中学校
１番　松田　　倫　君
２番　新井　　純　君

４　校庭に照明設置、中学生以上のボール遊びができる公園、
女子大通りの歩道の拡張について

第三中学校
６番　藤井　恵太　君
７番　中村　悠杏　君

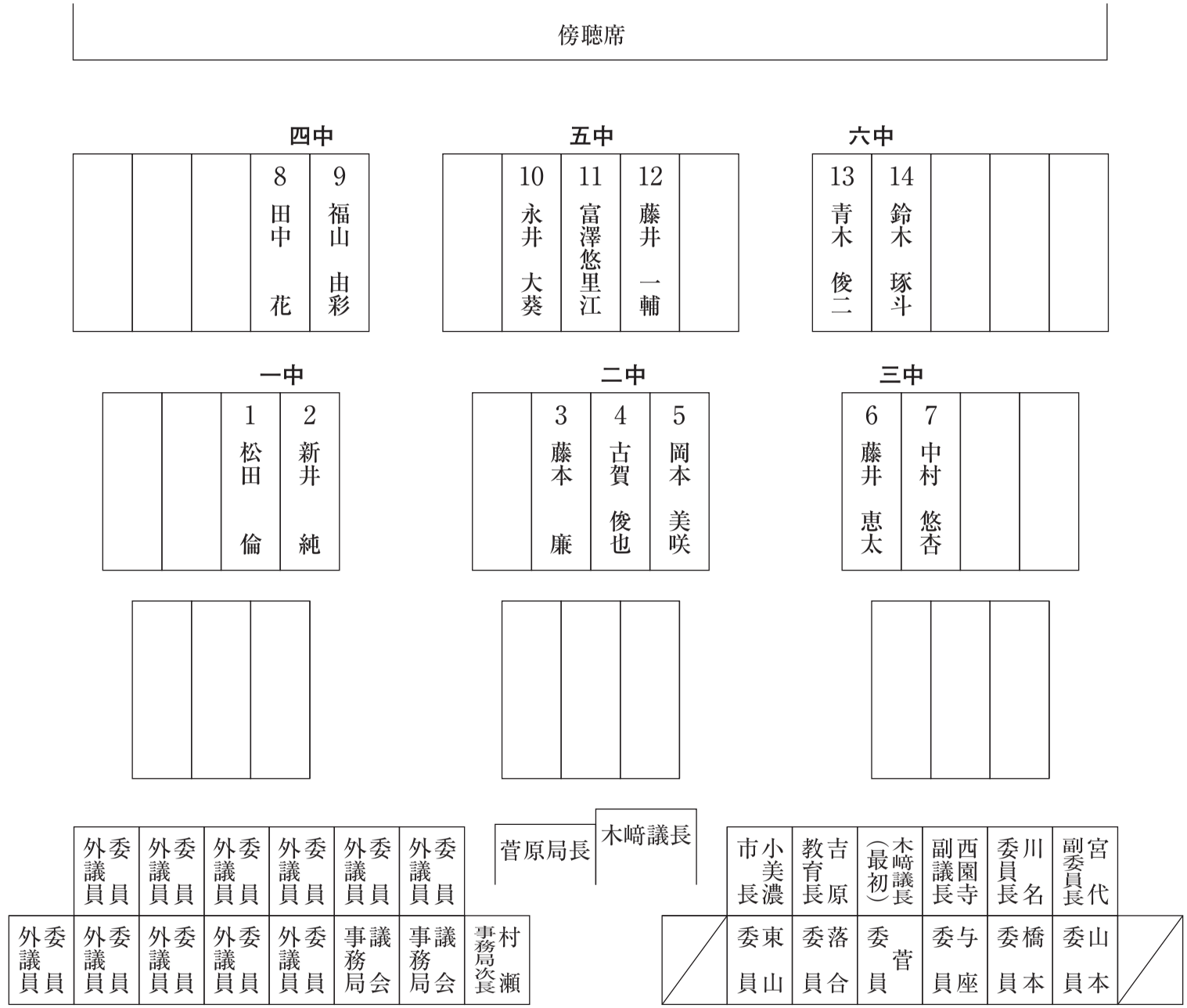
５　通学路の安全対策、バスケットコートの設置、
暑さ対策のインフラ整備について

第二中学校
３番　藤本　　廉　君
４番　古賀　俊也　君
５番　岡本　美咲　君

６　自転車通学と学校内でのバリアフリーについて

第六中学校
13 番　青木　俊二　君
14 番　鈴木　琢斗　君

令和８年度　武蔵野市中学生議会　席次表



令和８年度　武蔵野市中学生議会会議録

○出席中学生議員（14 名）

１番	松　田　　倫　君	２番	新　井　　純　君
３番	藤　本　　廉　君	４番	古　賀　俊　也　君
５番	岡　本　美　咲　君	６番	藤　井　恵　太　君
７番	中　村　悠　杏　君	８番	田　中　　花　君
９番	福　山　由　彩　君	１０番	永　井　大　葵　君
１１番	富　澤　悠里江　君	１２番	藤　井　一　輔　君
１３番	青　木　俊　二　君	１４番	鈴　木　琢　斗　君

○出席市議会議員（21 名）

２番	きくち　由美子　君	３番	大　野　あつ子　君
４番	深　田　貴美子　君	５番	東　山　あきお　君
６番	宮　代　一　利　君	７番	本　多　夏　帆　君
９番	小　林　まさよし　君	１０番	浜　田　けい子　君
１１番	落　合　勝　利　君	１２番	菅　　源太郎　君
１５番	蔵　野　恵美子　君	１６番	木　﨑　　剛　君
１７番	山　崎　たかし　君	１８番	与　座　　武　君
１９番	橋　本　しげき　君	２０番	三　島　杉　子　君
２１番	本　間　まさよ　君	２２番	山　本　ひとみ　君
２３番	下　田　ひろき　君	２４番	西園寺　みきこ　君
２５番	川　名　ゆうじ　君		

○来　　賓

市　　長　　小美濃　安　弘　君　　教　育　長　　吉　原　　健　君

○出席事務局職員

事務局長　　菅　原　誠　治　君　　事務局次長　　村　瀬　健　大　君

○午後２時００分　開　会

○**議　長（木﨑　剛君）**　ただいまより令和８年第１回武蔵野市中学生議会を開会いたします。

これより本日の会議を開きます。

初めに、市長より発言を求められておりますので、これを許します。

○**市　長（小美濃安弘君）**　中学生議員の皆さん、こんにちは。ただいま御指名をいただきました市長の小美濃安弘でございます。

今日は皆様方が令和８年の第１回中学生議会ということでお集まりをいただきまして、ありがとうございます。また、今日に至るまで、市議会議会運営委員会の皆さんを中心として、本当に様々御苦労されたということ、御尽力をされたということ、この場をお借りいたしまして敬意を表させていただきたいと思います。

さて、皆さん、どうですか、議員席の座り心地は。いつも議員さんがその議員席に座って、そして、私の席はここで、市長席ということで同じなのですが、こちらに副市長、部長、こちらにも部長たちが座って議員さんの質問に答えるという、こういう形になっております。そういう意味では、今日は相当本格的な、本番に近い形での中学生議会なので、思う存分この機会を楽しんでいただければなというふうに思っております。そして、今まで議員の皆さんとも打合せをしながら、様々検討をしたり、勉強したり、練習をしたりして今日を迎えているのではないのかなというふうに思っています。

実は、今日は３回目ですが、１回目、２回目と中学生議会で出された意見というのがもう既に施策に取り入れられています。例えば、よく出ていたのが、居場所が欲しい、自習室が欲しいという意見がありました。早速、去年も今年も実は商工会館の会議室を自習室として開放させていただいています。あまり認知度がないので、知らない方もいらっしゃるかもしれませんが、ぜひ使ってみてもらえるとありがたいなと。また、中高生の居場所として、また新しくこれからも様々なところで開設をしていきたいなというふうにも思っています。

さらに、多かったのが、中学生の皆さんが、もしくは中高生の皆さんが自分たちで企画して自分たちのための文化祭をやりたい、集まりをやりたい、そういう訴えもありました。これも、ぜひこれは



開会前　司会　宮代議会運営副委員長



小美濃市長挨拶

いい案だからやってみようということで、実は今年、市民文化会館で、中高生の中高生による中高生のための文化祭というのを開催することになりました。ポスター等も見て知っていらっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、もう既にダンスや、またバンドなどの応募が来ているところでございます。そして来年、来年は武蔵野市市制施行80周年ということになるのですが、この80周年に本番、今年はプレ大会、来年に本番を迎えるということで、ぜひ皆さんも参加してみていただけるとありがたいなというふうに思っています。

今日も様々、皆様方からすばらしい提案を聞かせていただけると思っておりますので、楽しみにして聞かせていただきたいと思っております。今日はよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○議　長（木﨑　剛君）　次に、教育長より発言を求められておりますので、これを許します。



吉原教育長挨拶

○教育長（吉原　健君）　中学生議員の皆様、こんにちは。ただいま紹介していただきました武蔵野市教育委員会教育長の吉原と申します。今日はよろしくお願いします。この後、中学生議員の皆さんから一般質問という形で様々、市政とか、あるいは教育委員会、学校に対して皆さんの御意見、提案をいただけることを本当に楽しみにしておりますが、ほとんどが学校とか教育に関わることなので、非常にどきどきしております。

実は私も中学校の現場にずっと長く勤めておりました。中学校の教員として、皆さんと同じ世代の中学生とずっと長く関わってきまして、中学生にこれまで、助けられたり、励まされたり、勇気づけられたり、元気づけられたりして、何とか教職を全うすることができました。そういう意味では、中学生の皆さんに対してすごく感謝の気持ちを強く持っているところです。

そしてもう一つ、中学生の皆さんに感じていることがあって、中学生は、やはり学校とか地域を変える力があると私は強く思っています。それは、私の教師としての経験もそうですし、それから中学校で校長をさせていただいたときの経験も含めて、中学生は学校をよりよくする力をとても強く持っていると私は感じていますし、それから、自分たちが住むまち、地域を元気にしたり笑顔にする、そういう力も持っているというふうに私は確信しておりますし、そういう姿をたくさん見てきました。武蔵野市の中学生の皆さんの潜在力、行動力も、この武蔵野市で今仕事をさせていただく中で見てきました。

１つ、武蔵野市には市民科という、皆さん学校で武蔵野市民科を経験してきたと思うのですけども、自分たちの力で地域をよくするためにどうすべきか、何ができるか、どんな行動ができるか、それについて当事者意識を持って皆さん取り組んでこられたというふうに思いますし、先ほど市長もお話されていましたけど、その成果が着実にこの武蔵野市の市政とか、それから教育行政に生かされているなというふうにとても強く思っています。

最初に戻ると、今日はほとんど学校や教育に対しての皆さんの意見を伺うことで、こちらも襟を正して、この後で皆さんの意見をしっかりと受け止めていきたいというふうに思います。今日は教育委員会の事務局も、皆さんの意見を聞いている人たちがいますので、しっかりとこの後、皆さんの意見、提案を受け止めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、今日はどうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。

第１　会期の決定

○**議　長（木﨑　剛君）**　これより議事に入ります。

本日の議事は、日程第１号をもって進めます。

日程第１　**会期の決定**を議題といたします。

お諮りいたします。今期中学生議会の会期は、本日１日といたしたいと思いますが、これに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○**議　長（木﨑　剛君）**　異議ないものと認めます。よって、今期中学生議会の会期は１日と決定いたしました。

第２　諸報告

○**議　長（木﨑　剛君）**　次に、日程第２　**諸報告**を行います。

局長に報告させます。

○**事務局長（菅原誠治君）**　それでは、本日出席議員を学校ごとに紹介をいたしますので、名前を呼ばれましたら、元気よく返事をして、起立をしてください。

第一中学校、１番、松田　倫議員、２番、新井　純議員。

第二中学校、３番、藤本　廉議員、４番、古賀俊也議員、５番、岡本美咲議員。

第三中学校、６番、藤井恵太議員、７番、中村悠杏議員。

第四中学校、８番、田中　花議員、９番、福山由彩議員。

第五中学校、10番、永井大葵議員、11番、富澤悠里江議員、12番、藤井一輔議員。

第六中学校、13番、青木俊二議員、14番、鈴木琢斗議員。

以上です。

○**議　長（木﨑　剛君）**　以上をもって諸報告を終わります。

第３　一般質問①

第四中学校
武蔵野市内の中学校同士の交流についてと交通について

○議　長（木﨑　剛君）　次に、日程第３　一般質問を行います。

武蔵野市内の中学校同士の交流についてと交通について、第四中学校、８番田中　花議員、９番福山由彩議員。

（８番　田中　花君、９番　福山由彩君　登壇）（拍手）

○８　番（田中　花君）　皆さん、こんにちは。第四中学校の田中　花です。

○９　番（福山由彩君）　福山由彩です。

○８　番（田中　花君）　本日は、武蔵野市内の中学校の交流についてと、交通についてを３つ、合計４つを提案させていただきます。

まずは、武蔵野市内の中学校の交流についてです。

私は、武蔵野市内の中学校の交流が少ないと感じています。そこで、武蔵野市内の中学生を対象に、学校対抗で体育祭のような盛り上がる行事を開催したらよいと考えました。



８番　田中　花　君

理由は２つあります。まず１つ目は、武蔵野市内で部活に入っている人以外は他校と交流する機会がなく、同じ武蔵野市内に住んでいる者同士で仲よくなるためです。もう一つは、武蔵野市内には壮麗な武蔵野陸上競技場があり、その恵まれた施設があるため、活用して武蔵野市内の中学生が交流をすれば、よい思い出として残ったり、学校内の絆がさらに深まり、学校生活でさらに生徒同士が楽しく過ごせるようになると考えます。中学生という立場では、他校との交流があれば、武蔵野市のよいライバルにもなり、他校の人とも仲よくなれるチャンスがあれば、もっと生活が充実し、楽しくなると考えます。

もう一つの提案は、武蔵野市内にはムーバスという武蔵野市内のバスがあります。そのバスは、武蔵野市内だけのバスのため、小学生や中学生の料金を半額にしてはどうでしょうか。また、小学生は証明するものがないですが、小学生と中学生は、学生証を使って武蔵野市の学生ということを証明すれば、夏の決められた期間は無料になるなどにするのはどうでしょうか。小学生には、そのためのカードのようなものを配付して、分かるようにすればよいと思います。小学生も中学生もまだ義務教育中で、勉強に一生懸命に取り組んでおり、三鷹駅や吉祥寺駅に行く人が多いと思います。そうすれば、ムーバスを活用する人も増えると思います。安くなっても、利用する人が増えれば赤字にはならないと思います。

○９　番（福山由彩君）　私からは、交通について２つ提案させていただきます。



９番　福山　由彩　君

１つ目は歩道についてです。武蔵野市には様々な場所に自転車レーンや自転車歩行者専用道路が設置されています。このような道は、自転車と歩行者が安全に通行する上で、よい取組だと思います。

しかし、自転車レーン、自転車歩行者専用道路がなければ、自転車が車道を走行した際に自動車と接触したり、歩道を走行した際に歩行者と接触したりするおそれがあります。歩行者、自転車利用者、運転者の安全を守るため、ほかの交通量の多い道路についても、自転車レーン、自転車歩行者専用道路の設置を検討していただきたいです。

前回の中学生議会でも先輩が同じような提案をしています。ですが、今年度から交通反則通告制度が適用され、自転車利用者は、これまで以上に交通ルールを守ることが必要です。状況が変わった今だからこそ、改めて交通量が多い道路に自転車レーン、自転車歩行者専用道路を整備することについて、再度検討をお願いします。

２つ目は、街路樹についてです。中央通りには桜の木が街路樹として植えてあり、春には桜のトンネルのようになったりと、とてもきれいな風景を生み出しています。しかし、その木の枝葉によって信号が部分的に隠れてしまい、信号の色が瞬時に判別できません。また、道路標識も認識しづらくなってしまっています。

国土交通省の道路緑化技術基準の第３章には、「樹木等の管理に当たっては、道路巡回や道路利用者からの道路の異状等に関する情報の活用により、道路交通への支障や道路利用者等の危険の未然防止に努めなければならない」とあります。現在の状況は、道路交通の安全確保という観点から改善が必要な状況ではないでしょうか。

また、街路樹については、このほかにも様々な基準がありますが、私たち市民は、その基準が守られているのかを専門的に判断することはできません。そのため、現在の街路樹について、市が基準に沿った管理がされているのか、確認していただきたいです。その上で、基準が守られていないのであれば、早急に対応していただきたいです。また、基準が守られていたとしても、信号の色が瞬時に判別できない、道路標識が認識しづらいという現状があるため、安全確保のために対応を検討していただきたいです。



以上で第四中学校の武蔵野市内の中学校の交流と交通についての提案を終わります。御清聴ありがとうございました。（拍手）

○１９番（橋本しげき君）　ただいまの第四中学校の田中　花さんと福山由彩さんの御質問にお答えをいたします。具体的な御提案を含む御質問をいただきました。これらの御提案にお答えいたします。私は議会運営委員の橋本しげきでございます。


第四中学校への答弁　橋本委員

大きな１点目は、学校対抗の盛り上がる行事の開催についての提案です。武蔵野市の陸上競技場を利用して体育祭のような盛り上がる行事を開催したらよいのではないかということです。中学校同士の交流がしたいという希望は多くあると思います。交流の仕方はいろいろだと思います。今回は、体育祭のような盛り上がる行事を開催したいということです。これは大変いいことではないでしょうか。同じ中学校の中で行われるふだんの行事とはまた違って、学校の枠を越えて行う行事というのは、違うわくわく感があるのではないかというふうに思います。

ただ、新たな行事を行うとなると、学校間でスケジュールを合わせる調整が必要になってきます。行事の準備のための時間も確保する必要がありますし、どうやって行事を実施するかなど、いろいろ考えなければならない新たな検討事項が発生すると思います。こうした点をどうクリアするか、みんなで知恵を出し合っていければよいというふうに思います。

先ほど市長の冒頭の挨拶でもあったのですが、中高生世代合同文化祭というのが今年11月21日に行われるということで、ステージ部門と写真部門があるということです。これは学校対抗ではないかもしれませんので、学校対抗の盛り上がる行事ということでは、また別の考えが必要になるかもしれないのですが、一歩一歩こういうことが進んでいけば、いろいろなことができていくのではないかなというふうに思っています。

この中高生世代合同文化祭の基になった、アイデアが出てきた中高生世代ワークショップ、Ｔｅｅｎｓムサカツというのも行われておりますので、こちらのほうもぜひ積極的に関わっていただければ、いろいろアイデアが出てくるかなというふうに思います。

それから大きな２点目は、交通についてです。

１つ目は、小学生や中学生のムーバスの料金を半額にということです。ムーバスは1995年11月に運行が開始され、2012年３月から交通系ＩＣカードが利用できるようになっています。運賃は100円の均一料金です。大人と子どもは100円の同一料金であるため、子ども料金は今ありません。ですから、小学生、中学生は大人と同じ料金になっています。小学校に入る前の未就学児は無料です。

ムーバスのようなコミュニティバスは全国の自治体に広がっています。全国や都内の状況を見ますと、中学生は大人料金、小学生が大人料金の半額、未就学児が保護者同伴で無料というところが幾つもあります。また、小学生と中学生を子ども料金として大人料金の半額としている自治体もあります。ですから、小学生を大人料金の半額にする、さらには中学生も大人料金の半額にするということについて、今言ったように実施している自治体がありますので、政策的には、これはあり得ることだ



というふうに考えています。18歳までの医療費無償化や学校給食の無償化などが進められてきていますから、交通問題についてもどういう在り方がよいか、議論が必要かというふうに思います。小学生や中学生のムーバス料金が半額になれば、ムーバスの利用者を増やすことにつながる可能性があると思います。

一方、現在、運転手の確保の問題から、ムーバスの本数が減っているという路線があります。運転手の確保を進めながらムーバスの利用者を増やしつつ、ムーバス全体がうまく発展していけるような取組が必要だというふうに考えますので、ぜひ市のほうで検討をしていただければなと思います。

２つ目は、自転車レーン、自転車歩行者専用道路の整備についてです。安全な交通のために、自転車専用道路、いわゆる自転車レーンを設置することは必要だというふうに思います。ただ、どうしても、現状の道路の幅から自転車レーンに必要な幅をどうやってつくり出すかということが大きな課題になります。御指摘のように、自転車の交通ルールを守ることへの対応が今厳しくなっております。一人一人の安全意識の向上などが大事になりますが、それだけではなく、同時に、自転車レーンの確保など安全な交通環境を整備していくことも必要だというふうに思います。

市内には狭いと思う道路が多くあります。歩行者、自転車、自動車が混雑する道路では、何とかならないかと思いますが、これまで自転車レーンを作ってきた道路もありますので、今後どうするかと、最大のハードルは、なかなか自転車レーンを確保する面積が取りにくいということだと思います。道路をどうするかを考える場合、歩行者優先だと思いますが、歩行者にとってどうか、自転車にとって、自動車にとってどうかと、それぞれの立場に立って総合的に考えることが必要になると思います。現状、改善すべきだと思いますけども、道路の幅が狭いところを歩行者、自転車、自動車にどう割り振るかというなかなか難しい問題です。将来の道路計画も見据えて、安全を最優先にして、市道については市が、都道は都がよく考えていただければと思います。

それから３つ目、道路交通の安全確保についてです。まちの緑を確保して気候危機対策を進める上でも、街路樹の役割は重要だと思います。最近は樹冠被覆率という考え方があります。樹冠被覆率と

いうのは、上空から見たときに、樹木の枝や葉が茂っている部分の市全体の面積に対する割合のことです。街路樹の枝や葉によって道路が覆われると、路面の温度が20度ぐらい下がるというふうに言われております。世界では、気温を下げるために最も効果的、経済的だということで、樹冠被覆率を高める取組が進められています。

しかし、街路樹の状況によっては、御指摘のように信号や標識が見えにくくなったりします。これは、道路交通の安全確保の点では当然改善しなければいけないというふうに思います。街路樹の整備と道路交通の安全確保を両立するということが大事だと思います。

国土交通省の道路緑化技術基準を紹介していただきました。市としては、当然この基準を満たすべく取り組んでいると思いますけれども、特に夏は街路樹の生長が著しい時期ですから、現場の状況によっては道路交通の安全確保に支障を来す場面が起こり得ると思います。ですから、市として日々気をつけることはもちろんですけど、気づいた点があれば、市民の方々から情報をいただければ、対応できるかというふうに思われます。今後とも道路交通の安全が確保されるようにしていくことが必要だと思います。

以上で第四中学校の御質問に対する答弁を終わります。

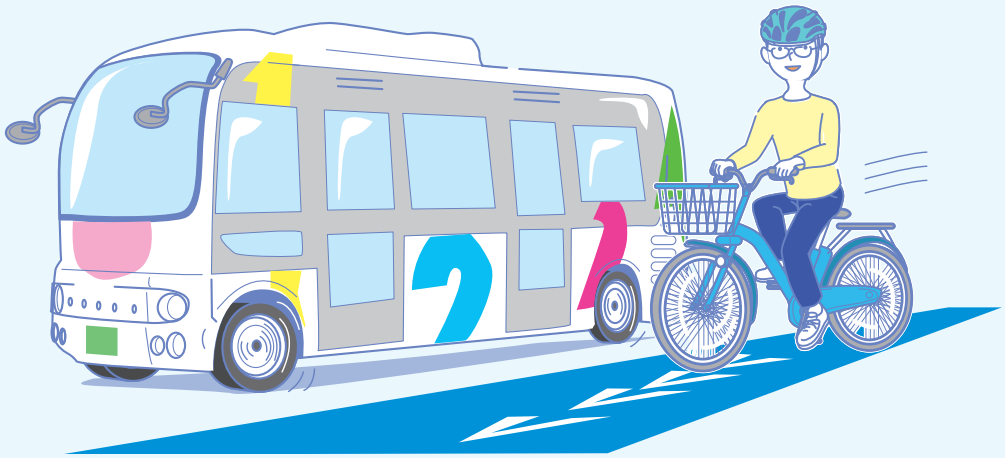
○**議　長（木﨑　剛君）**　第四中学校は、ただいまの一般質問に対する感想をお願いします。

○**８　番（田中　花君）**　今回、中学生議会という貴重な経験をすることができて、とてもよかったです。いつも何も考えずに過ごしていた武蔵野市のことについて、さらに考えられる期間でした。今回の中学生議会で出された意見が今後どのように反映されるかは分かりませんが、武蔵野市のこれからの変化をとても楽しみにしています。本日はどうもありがとうございました。

以上です。

○**９　番（福山由彩君）**　今回はこのような機会を用意してくださり、ありがとうございました。ふだんあまり考えることのない武蔵野市について考えることができ、とてもよい機会になったと思います。今回の中学生議会で学んだことを今後の生活に生かしていきたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

以上です。（拍手）



第３　一般質問②

第五中学校
学校遠足、防災宿泊、学校の土日開放等について

○**議　長（木﨑　剛君）**　次に、学校遠足、防災宿泊、学校の土日開放等について、第五中学校、10番永井大葵議員、11番富澤悠里江議員、12番藤井一輔議員。

（１０番　永井大葵君、１１番　富澤悠里江君、１２番　藤井一輔君　登壇）（拍手）

○**１２番（藤井一輔君）**　これから第五中学校の発表を始めさせていただきます。２年の藤井と。

○**１１番（富澤悠里江君）**　富澤と。

○**１０番（永井大葵君）**　永井です。



10番　永井　大葵　君

私たちは、武蔵野市について、生徒の目線からどうすれば学校がより楽しくなるかを考えました。

１つ目は、学校遠足についてです。第五中学校では、セカンドスクールや鎌倉校外学習、修学旅行など、移動行事が年に１回ほどあります。その移動行事ですが、五中生の多くは恐らくこう思っています。足りねえ、もっと移動行事がしたい。ということで、僕は学校全体で遠足することを提案します。詳細としては、武蔵野市の全６校が同時に遠足、そして公園などを巡って、それぞれのいいところを集めた中学生の居場所になるような夢の公園の政策計画を提案することに向けての縦割り班で公園を巡ることです。

これを提案することには幾つか理由があります。１つ目は、他学年との交流です。先ほども言ったように、他学年との縦割り班で遠足をしたいと思っています。なぜ他学年と行動するのか。主な理由としては、部活に入っていない生徒や、部活に入っているが部活の他学年以外とあまり関わりがない生徒が他学年と触れ合う機会をつくり、今後の学校生活で他学年と関われるようになるためです。結果がどうであれ、このような機会を取らないと、他学年との交流は難しいと思われます。これは、他学年との交流の最初のチャンスで、今後もつながっていけるといいと思います。

２つ目は、他校との交流です。拠点校部活や塾に行く人以外は、他校の生徒と交流する機会があまりありません。今回の行事で、武蔵野市の中学生が同時に様々なところを巡ることで、新たな交流が生まれます。公園を巡る際は、ほかの学校の生徒と交流できます。よって、他校との関係を深めるいい機会になるのではないでしょうか。

３つ目は、中学生の運動不足解消です。武蔵野市は、中学生が満足して遊べるところがあまりないです。自分たちで新しい交流をすることで、自分たちが満足して遊べる公園をつくれると思います。ボール遊びオーケーな公園や思い切り遊べる公園など、様々な公園が挙げられる中、そして、最初に言ったように、五中生はもっと移動行事をしたがっています。自分たちが満足できる場所をつくる、

他校との交流、運動不足解消など、様々な目的から、全学校での遠足を提案します。

○１２番（藤井一輔君）　私が提案したいことは２つあります。



12番　藤井　一輔　君

１つ目は、避難訓練と併せた防災宿泊行事の実施です。武蔵野市立第五小学校では、防災教育の一環として、避難訓練と宿泊を組み合わせた行事が行われています。しかし、第五中学校ではそのような体験をする機会がありません。日本では、地震や台風など自然災害が多く、いつ災害が起こるか分かりません。そのため、中学生のうちから学校で避難生活を体験し、災害時に必要な行動や協力することの大切さを学ぶことはとても意味があることだと考えます。また、宿泊行事では、夜の学校だからこそできる活動を取り入れたいです。例えば、校内で安全に配慮した手持ち花火で遊んだり、校内で肝試しを行ったりすることで、友達との交流が深まり、学校全体の団結力も高まると思います。ただ楽しいだけではなく、避難生活の体験と組み合わせることで、防災について考えながら、思い出に残る行事になると考えます。

２つ目は、学校の土日開放です。第五中学校は新しい校舎が完成し、きれいな自習室や学習スペースなど、充実した環境が整っています。しかし、土日には利用することができません。家では集中できず、静かな場所で勉強したいと考える生徒も多いと思います。そのようなときに自習室を利用できれば、友達と勉強ができたり、教師に勉強を教えてもらうこともできます。複数人で勉強することによって、教え合い、学習能力を高めることができます。

また、校庭も開放すれば、地域の友達と安心して遊んだり運動したりすることができます。ゲームやスマートフォンだけではなく、外で体を動かす機会が増え、健康づくりにも役立つと考えます。もちろん、安全面を考え、利用時間や利用場所を決めたり、先生や地域ボランティアの方に見守っていただいたりなど、ルールを設ければ安全に運営できると考えます。

私は、この２つの提案が実現することで、防災意識を高めながら、思い出に残る学校生活を送れると考えています。第五中学校が、生徒にとって今まで以上に魅力ある学校になることを期待しています。

○１１番（富澤悠里江君）　私は、生徒たちが登下校で感じている負担を減らし、生徒が快適に登下校できるように、２つ提案します。

１つ目は、学生証を提示すれば、ムーバスを無料で利用できる制度についてです。私たちは、荷物が重い日や夏の暑い日の登下校に負担を感じています。そこで、第五中学校の前にあるムーバスの停留所を利用できれば、もっと快適に登下校できるはずです。もちろん、多くの生徒が利用すると、ほかの乗客の皆さんに御迷惑をかけてしまうと思います。そのために、利用者が増える時間帯にはムーバスの本数を増やし、混雑を緩和する工夫をお願いしたいと考えています。この制度が実現できれば、気持ちよく登下校できると期待できます。

２つ目は、自転車通学についてです。自転車通学ができれば、速く安全に登下校できると考えられます。現在の武蔵野市では、拠点校部活に参加する生徒のみ自転車の通学が認められています。大きな事故は多くない状況ですが、安全面の配慮をする必要があります。そのために、自転車講習会を実施し、自転車通学をする生徒に向けたルールを設定する必要があると考えます。



11番　富澤　悠里江　君

また、重い荷物を自転車で運ぶことは、事故につながる危険性があります。そこで、ムーバスを活用した荷物運搬システムを提案します。仕組みは、生徒が荷物を学校で預け、自転車で帰宅します。その後、生徒は最寄りの停留所に設置された荷物ボックスで受け取ります。ただし、この仕組みでは運転手さんの負担がかかってしまいます。そのために、荷物を積み下ろしするスタッフを配置したり、混雑する時間帯だけで実施したりするなど、運転手さんの負担を減らすことも大切だと思います。これらの提案が実現できれば、生徒の負担が軽減され、安心して学校生活を送ることができると考えられます。

私たち第五中学校では、このような案を立案してまいりました。この案は、もちろん実現することが難しいことだと分かっています。でも、やはり武蔵野市をよりよくするために、３人とも一生懸命考えてきたので、ぜひとも検討して、できれば実施していただき、武蔵野市をよりよくしていただきたいと思います。

○**１０番（永井大葵君）**　これで第五中学校の発表を終わります。御清聴ありがとうございました。（拍手）

○**１８番（与座　武君）**　それでは、我が母校、武蔵野市立第五中学校の頼もしい後輩であります永井大葵議員、藤井一輔議員、そして富澤悠里江議員からの、画面では５点でしたけど、６点にわたる御質問だと理解し、順次お答え申し上げます。

まず、第１点目の御質問は、学校全体で遠足することについてです。現在、中学校での校外学習活動として、１年生でセカンドスクール、２年生で職場体験活動、３年生で京都・奈良への修学旅行が実施されています。第五中学校では、そのほかにも２年生で鎌倉校外学習も行われています。この御質問の趣旨は、これだけでは足りない、もっと増やしてほしいということと理解をいたしました。

結論から言います。実現の可能性はゼロではないと思います。ただし、学校の年間の授業時間数が決まっていて、その中で先生方がやりくりをして、学習指導要領に決まっている学習内容を教えなければなりません。先生方にお聞きすると、各教科に上限が決められている授業時間の時数の中で、かなりいっぱいいっぱいで授業をしており、新たな行事の時間を捻出できるか、非常に厳しいということです。

しかし、例えば生徒会が中心になり、自主企画で行事を仕掛けることは可能ではないでしょうか。漏れ聞くところによりますと、二中さんですか、では、生徒会が主催で、昼休みの時間を利用して、

全学年対象のバレーボール大会を開催していると聞いています。それに、五中には、真冬の真夜中に西久保コミセンと多摩湖間を往復で26キロメートル歩くという地域伝統行事、ナイトハイクがあります。そこでみんなで非日常感を味わうのも一興ではないかと考えております。

なお、学校全体で遠足することの理由として、他学年との交流や他校との交流を増やせるよいチャンスだと述べられていました。全くそのとおりで、多くの人たちと人間関係を構築していくことは、今後の人生を生きていく上でも非常に大切なことだと感じております。しかし、中学生が運動不足だというのは本当なのでしょうか。中学生でも遊べる公園を増やしてほしいということであれば、ぜひ具体的な御提案をしてください。武蔵野市では、水遊びやボール遊びができる公園、プレーパーク、ドッグラン、ビオトープ、農業体験公園、そして防災広場など、数多くの特色ある公園づくりを進めています。御提案をお待ちしております。

次に２点目の質問は、避難訓練と併せた防災宿泊行事の実施についてであります。壇上でも述べられていましたとおり、最近発災した熊本地震、そして過日の千葉の豪雨災害を例に挙げるまでもなく、日本は地震や台風などの自然災害が多く、いつ災害が起こるか分かりません。今後30年以内の首都直下地震の発災確率は約70％であります。その意味でも、御提案の、中学生のうちから学校で避難生活を体験し、災害時に必要な行動や協力することの大切さを学ぶことは、とても意味があることだと思っております。

今、武蔵野市で昼間、大規模災害が発生した場合を考えてみてください。多くの大人たちは仕事で武蔵野市外にいます。そのとき、地域で高齢者や障害のある人、乳幼児や妊婦、日本語がよく分からない外国人など、いわゆる災害弱者と呼ばれる方々をサポートする最前線の一角に立つのは、中学生の皆さん方だと思っております。その意味からも、学校での防災宿泊体験活動を実施することは、非常に重要度が高いと思っております。

結論から言います。実現の可能性はゼロではないと思います。ただし、前の質問でもお答えしたとおり、学校行事として実施することは大変厳しいと思います。しかし、例えば、開かれた学校づくり協議会や地域防災会、青少協などと協力して、中学生中心の防災宿泊体験活動を実施することは可能だと思います。ぜひ生徒の皆様方から、生徒会を中心に実行委員会等を立ち上げるなどして、地域の諸団体に話を投げかけてみてください。

蛇足ですが、第五小学校で毎年夏休みに行われている五小おやじクラブ主催の防災宿泊体験、実はこれ、私が20年前に言い出しっぺで始まっております。今年も８月22日土曜日から23日日曜日にかけて第五小学校の体育館で行われますので、ぜひお手伝いに来ていただければと思います。お待ちしております。

次に、３点目の質問は、学校の土日開放についてです。休日に学校の自習室や学習スペースを開放してほしいとの御提案であります。使っ



第五中学校への答弁　与座委員

ていないなら使わせてよというもっともな御意見であります。毎年中学生議会を開催すると、居場所が欲しいという要望が多数寄せられます。その解決策の一つとして御提案を受け止めました。

結論から言います。実現の可能性はゼロではないと思います。壇上でも述べられておりましたが、安全面を考え、利用時間や利用場所を決めたり、先生や地域ボランティアの方々に見守っていただいたりするなどのルールをつくって運用することは可能ではないのかなと考えています。

しかし、クリアしなければならない課題は、皆さんの私物も多くあるので、盗難防止などの校舎のセキュリティ対策を万全にすること、そして、信頼できる見守りをする大人を確保することだと思います。ぜひ皆さんが学習スペースとしての居場所を望むならば、生徒会等が中心になって、学校の先生方を含めて、開かれた学校づくり協議会と話をされることをお勧めいたします。いきなり全ての土日の開放を求めるのではなく、例えば定期試験前限定とか、実現の可能性のありそうなところから話を進めてみてはどうでしょうか。

４点目の質問は、学生証を提示すればムーバスを無料で利用できる制度についてです。御提案の趣旨は、荷物が重い日や夏の暑い日の下校時に、ムーバス三鷹駅北西循環（４号路線）に乗車できないか、できれば無料で乗車できないかと理解いたしました。確かに、ムーバス４号路線は、第五中学校の学区域である西久保、関前を循環運行しておりますから、登下校時に乗車できたら魅力的ですよね。ましてや、五中の校門脇に停留所もありますし、富澤議員の気持ちはよく分かります。もし私が中学生だったら、乗ってしまっているかもしれません。

ところで、ムーバスの基本コンセプトを御存じですか。まちの公共インフラとして、市民も利用者もみんなで支えるムーバスには、地域経済の活性化、高齢者の健康増進、子育て世代の外出機会の創出、自家用車の利用が減ることでの環境負荷の低減など、分野を超えたつながりの効果――これをクロスセクター効果というのだそうですが――を求めています。この基本コンセプトの考えの下、中学生が荷物が重い日や夏の暑い日の登下校時にムーバスを利用できるようにするとの発想は、決してとっぴなことではないと思っております。しかし、定員36名のムーバスは、平均乗車数約20名で、特に朝夕の時間帯は非常に混雑率が高く、そこに一時集中で中学生が乗車することは可能なのか、また、仮に乗車しても、一般乗客とのトラブルに巻き込まれるおそれがあるのではないか。また、昨今のドライバー不足の中、増便することが可能なのかなどなど、実現に向けてはクリアしなければなら



ない課題は多くあると思います。

特に、乗車料金の無料化は、ムーバスの基本コンセプトである、市民も利用者もみんなで支えるという考え方から、例えば高齢者や障害のある人だけを無料にするとか、妊婦や乳幼児を連れている人だけを無料にするなど、特定の属性のある方を無料にするという考え方は少し難しいのかなと考えております。先ほどの橋本さんの答弁とトーンが少し違っているのですが、今後、武蔵野市の地域公共交通活性化協議会においてムーバス運賃の在り方を議論していくことになっておりますので、そこに議論を委ねたいと思います。

５点目の質問は、自転車通学についてです。なぜふだんの生活で利用しているのに駄目なの、なぜ拠点校部活動に参加している生徒には認められているのに毎日の登下校に使えないのという質問は、至極当然だと思います。結論から言いますと、これも実現の可能性はゼロではないと思いますが、ハードルは非常に高く、厚いと思います。それは、学校の先生方や教育委員会が皆さんの安全確保、つまり交通事故に巻き込まれることを非常に心配しているからであります。

ちなみに、武蔵野市の自転車関与事故率は65.0％です。全国平均の23.2％、東京都平均の45.8％から比べても非常に高い数字を示しています。また、中学生ぐらいの10代から20代前半の自転車事故関与率も高い割合を示しています。これは、交通量調査結果を見ると一目瞭然なのですが、通勤通学時間帯に市内三駅周辺に向け歩行者と自転車が集中していることから起こっています。特に朝はみんな急いでいるので、猛スピードで飛ばしていますよね。もちろん自転車に乗る人のマナーに負うところが大なのですが、武蔵野市としても手をこまねいているわけではなく、武蔵野警察署と連携し、交通安全教育や自転車用ヘルメットの着用促進、そして、道路の自動車走行空間の整備などに取り組んでいます。このような自転車走行環境であることを理解していただいて、その上でどうしてもということであれば、生徒会を中心に、先生方と話合いをされることをお勧めいたします。

最後、６点目の質問は、ムーバスを活用した荷物運搬についてです。過去の中学生議会でも、我々市議会でも、生徒の荷物軽減、軽量化について多くの意見交換をしてきましたが、問題解決に向けて、このようなユニークな面白い発想はありませんでした。よくよく調べてみると、ムーバスで乗客と荷物を同時に運ぶことは、道路運送法第82条で禁止されていません。法令上は実施可能です。しかし、ムーバスのバス停の多くは住宅街の狭い道路上にあり、貨物ボックスの置場がない、分単位で定時運行しているムーバスの運転手がこのような作業に従事する時間的余裕はない。また、先ほども述べましたが、定員36名のムーバスは、平均乗車数約20名で、特に朝夕の時間帯は非常に混雑率が高く、物理的に荷物を乗せるスペースはありません。正直、発想は非常に面白いのですが、現実には非常に困難性が伴うものと感じています。しかし、せっかくの御提案ですので、さきに述べた地域公共交通活性化委員会に、市の担当者から、中学生議会でこんな提案がありましたよということは伝えさせていただきたいと思います。

先ほど控室であった追加質問、夏休みの宿題をなくせというのは、本日の答弁では控えさせていただきたいと思いますので、あしからずよろしくお願いいたします。

以上、我が母校、武蔵野市立第五中学校の後輩の皆様からいただいた御質問の答弁とさせていただきます。



今回、答弁書を書きながら、私自身、改めて地域公共交通計画、自転車等総合計画、そして六法全書を読み直す時間をもらい、非常に勉強になりました。皆さん方の鋭い質問に感謝申し上げます。ありがとうございます。

○**議　長（木﨑　剛君）**　第五中学校は、ただいまの一般質問に対する感想をお願いします。

○**１０番（永井大葵君）**　本日は、武蔵野市中学生議会にお招きいただき、誠にありがとうございます。本日の議会で、武蔵野市を新たな視点で見ることができました。また、自分の思う武蔵野市がこうなってほしいということを具現化できてよかったです。本日は本当にありがとうございました。

○**１１番（富澤悠里江君）**　まず、中学生議会という貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございます。自分で考えたことを発表するのは、思っていた以上に難しかったですが、まだまだ武蔵野市にはたくさんの魅力があることが分かりました。今後の学校生活でも、学んだことを生かして生活していきたいと思います。

以上です。

○**１２番（藤井一輔君）**　本日は改めてありがとうございました。ふだんなかなか体験できないことを体験させていただき、とても光栄に思います。市議会議員の方と話し合ったり、自分の意見を直接伝えたりするという大切さは、これからに生かしたいなと思いました。改めて、本日はありがとうございました。（拍手）



第３　一般質問③

第一中学校
五日市街道の道幅拡張、ゆったり過ごせる給食時間について

○**議　長（木﨑　剛君）**　次に、五日市街道の道幅拡張、ゆったり過ごせる給食時間について、第一中学校、１番松田　倫議員、２番新井　純議員。

（１番　松田　倫君、２番　新井　純君　登壇）（拍手）

○**２　番（新井　純君）**　皆さん、こんにちは。武蔵野市立第一中学校の新井　純と。

○**１　番（松田　倫君）**　松田　倫です。

これから、五日市街道の道幅拡張とゆったり過ごせる給食時間についての提案をしていきます。

まず、五日市街道の道幅拡張についてです。五日市街道の現状として、道が狭い、自転車が通りにくいといった問題点があり、事故も起きやすくなっています。そこで、五日市街道の道を広くし、自転車専用道路を造ってほしいと考えました。そのように考えた理由として、現在の道では、自転車は道路の端を通らないといけないため、通行が非常に危険であるということがあります。また、歩道を通っている自転車をよく見かけますが、それは車道の通行が危険だと考える人が多いからなのではないでしょうか。



１番　松田　倫　君

こちらの写真を御覧ください。これは現在の五日市街道の様子です。車道には多くの車が走っており、通るには危険ですが、自転車は歩道と車道の細い隙間を通行しなければなりません。このグラフは、武蔵野市の事故の割合を示したものです。このように、自転車の事故の割合が非常に高くなっています。これは、五日市街道のように通行が困難な道が多くあることが原因の一つなのではないでしょうか。

そこで、私たちは五日市街道の道幅拡張についての提案をしていきます。拡張した分を分離歩道にし、自転車専用の道路を造ることで、通行の危険を減らすことができると考えています。実際に分離歩道を多く採用している武蔵境の道路を見ると、自転車の道が十分に確保されているため、危険な通行は少なくなっています。歩行者と自転車で道を分けることにより、衝突などの事故を防げて、快適で安全に通行できるようになると思います。五日市街道の道幅拡張と分離歩道の採用について御検討をお願いします。

○**２　番（新井　純君）**　次に、ゆったり過ごせる給食時間についてです。結論としては、適切な給食時間を確保してほしいと思っております。

私が生徒会選挙に立候補した際、友人や先輩、後輩たちにどんな学校生活を送りたいかを聞いて回った際、最も寄せられた声に、給食時間が短いという意見がありました。給食時間が短くて食べ切



２番　新井　純　君

れない、前の授業が長かったり教室移動があったりすると、どうしても時間が足りない。早食いをしておなかを下してしまったといった意見です。そこで、ゆったり過ごせる給食時間を掲げて選挙に挑み、たくさんの生徒の皆さんから支持していただき、生徒会長をやらせていただいています。

この声を実現するべく企画書を作成し、担当の先生に御協力をいただきながら話を進めた結果、給食センターの食器回収トラックが各校を巡回する時間の関係で、第一中学校１校だけでは給食時間を変えることはできないという結論に至りました。朝の学級活動の時間を調整することで、校内の時間割の中で給食の開始を早める方策を検討し、たくさんの先生方にもアドバイスをいただきながら進めましたが、こちらも最終的には実現には至りませんでした。先生方にも多大なるお力添えをいただき、校内でできる限りの方策を尽くしても、なお実現することができなかったため、本日このように提言させていただくことにしました。

こちらの資料を御覧ください。このグラフは、年間の児童生徒１人当たりの残飯量を表しています。この調査からも分かるとおり、１人の児童生徒だけでも年間で7.1キログラムもの給食が食べ残されていることが読み取れます。加えて、給食時間は小学校よりも15分も減っています。時間をつくるために配膳や片づけを急いでいますが、実際に給食を食べている時間は15分程度になってしまうことが多々あります。体が大きくなり、給食量も1.4倍に増えているのにもかかわらず、小学校の頃よりもより短い時間で食事を終えなければならない状況です。

さらに、短い給食時間で食べ切るために早食いをすることにも大きな危険が隠れています。京都府立医科大学などの研究チームの研究では、体格指数25以上を肥満としたとき、早食いの人はゆっくり食べる人より糖尿病のリスクが1.61倍になるという結果も出ています。ほかにも、早食いでよくかまずに飲み込んだために命に関わる事故が発生するなど、近年ニュースになり問題になったこともあります。

給食時間の確保は全国で議論されており、実際にこの課題の解決に成功した自治体もあります。横浜市では、保護者や生徒からの給食時間が足りなくて焦るといった声が相次いで寄せられたことを受け、市の教育委員会が実態の把握を行い、各校の校長に給食時間の見直しを指示しました。その結果、全ての市立中学校で時間の延長が検討され、実際に食べられる時間として20分程度が確保されるようになりました。現在は、さらに25分以上を確保することに向けて、教育委員会がモデルを示して各校に働きかけを



続けています。実際に、時間にゆとりができて給食が楽しみになった、落ち着いて残さずに食べられるようになったという声が上がっています。

適切な時間を確保することで、残飯を減らし、病気や事故のリスクを抑えることが期待できます。そして何より、友人とたわいもない話をしながらおいしいものを味わう時間は、非常に大切でかけがえのない時間なのではないでしょうか。今日この場にいらっしゃる皆様も、学生時代の友達との食事の時間は、今も大切な記憶として持っていらっしゃるのではないでしょうか。そして、大人になった今も変わらず、友人との食事の時間を大切にされているのだと思います。

私たち生徒自身も、準備をできる限り速やかに行うことなど、自分たちでできる取組は続けてまいります。しかし、１校単独では解決ができない構造的な課題である以上、市としての御対応をお願いしたいと考えております。武蔵野市でもゆったり過ごせる給食時間が実現できるよう、皆様方のお力をお借りできないでしょうか。この件についても前向きに検討していただけると幸いです。

五日市街道の道幅の拡張、全員がゆったり過ごせるような適切な給食時間の確保について、ぜひ前向きに御判断いただければ幸いです。

以上で武蔵野市立第一中学校の発表を終わります。御清聴ありがとうございました。以上です。



第一中学校への答弁　菅委員

○**１２番（菅　源太郎君）**　それでは、第一中学校の松田　倫議員と新井　純議員の質問にお答えいたします。大きく２点お尋ねでした。

まず、五日市街道の道幅の拡張についてです。道路が狭く、自転車利用の多い武蔵野市では大変重要な課題で、これは毎回中学生議会でも、この道路に関しては様々な、今日もそうですけれども、課題が取り上げられていると認識しています。また、これも触れていただきましたが、今年１月１日から、青切符と言われる反則切符が導入されて、もともとルールとしてはあったわけですが、13歳以上、中学生以上は、自転車は原則車道通行との交通ルールも強調されるようになっています。御指摘の五日市街道は、通行するバスによる自転車の追越しもあって、松田議員が御指摘されたように、自転車がやむを得ず歩道通行している例があると私も感じています。

この五日市街道ですけれども、吉祥寺南町４丁目から関前４丁目までの区間、ここが、1962年といいますから、もう今から64年前になるのですが、道幅16メートルの道路にすることが都市計画決定されています。64年前です。道幅16メートルのうち、車道が９メートル、歩道がそれぞれ3.5メートル、合わせて16メートルということに計画はされています。ただ、計画延長は約4.3キロあるのですが、そのうち、計画どおりになっているのは１割程度ということです。多くは道幅が11メートル、車道が７メートルで、歩道がそれぞれ２メートルという状況になっています。先ほど藪原議員提供という写真がありましたけども、あれを御覧いただくと分かるのですが、歩道の隣のところに植え込みがあるのです。あそこは既に都市計画の線がかかっていて、将来的にはあそこは道路になる予定の土地

なので、高い建物は建てないということで、今はああいう形になっています。そういうところがたくさん確かにあるのです。でも、まだ全ての道幅が広げられる状況にないものですから、そのままの状態が続いている。そして、先ほど御指摘があったように、非常に自転車で車道を走るのが危険を感じるということは、全くそのとおりだと思います。



都市計画決定から半世紀以上経過していることを考えると、道路全体の完成は、かなり将来、皆さんが大人になって、それでもできるのかなというぐらい時間のかかることは想定されるのですが、それまで、部分的に道路が拡張できないのかとか、あるいは、やはり電柱が立っているので、電柱によってかなり歩道が塞がれるということもありますので、電柱を地中化できないのか、そういったことも担当課に確認をしました。１つ目は、これは都の道路なのです。都道といって、東京都が管理している道路ということもあって、市だけで決めてやっていくことができない、都と相談していく必要があるということが１つあります。

それから実は、五日市街道と大きい、例えば中央通りとか、幾つかの通りとの交差点付近は、交差点すいすいプランといって、例えば右折レーンを作るために道幅を広げるようなことはやっているのですけれども、残念ながら、私が尋ねた一部だけ道幅を広げるとか、それから電柱を地中に埋める――これ、電柱を地中に埋めても、結局地上に装置を置かなければいけないという関係もあって、そうしたことを考えると、やはりある程度まとまった距離が工事できる状況にならなければ進めるのは難しいという担当課の回答でした。

それから、自転車道をというお尋ねなのですけれども、この五日市街道は、先ほど言ったように計画では16メートルの道幅ということになっています。先ほど松田議員が御紹介いただいたあれは、多分新武蔵境通りだと思いますが、今25メートルの道幅があります。ですから、この16メートルの道幅に仮になったとして、そのときに、それが歩道として使うべきなのか、歩道と車道を削って自転車道もつくるべきなのかというのは、多分、もっと道幅が広げられる状況が訪れたときにさらに議論する必要があるのかなというふうに思います。お尋ねのように、ルールが厳しくなっているわけですから、それに合わせて道路の整備も進めてほしいというお気持ちは分かるのですが、なかなか実際にそれだけの面積を確保するのが厳しいという状況もあります。

実は、都道と先ほど申し上げましたが、今日傍聴席に都議会議員の方もいらしていますので、ぜひ都政の中でも、お二人いらしていますので、都議会の中でもぜひこの課題については、今日お聞きいただいたと思いますので、共有いただければと思います。

そしてもう１点、ゆったり過ごせる給食時間についてのお尋ねです。文部科学省の食に関する指導の手引には、「給食時間は児童生徒が友達や担任等と和やかに楽しく会食する時間です。食事にふさわしい環境を整え、ゆとりある落ち着いた雰囲気で食事ができるよう、日頃から児童生徒が安心して

食べられる食事環境づくりに心がけることが大切です」と、こう書かれていました。武蔵野市の学校給食の献立作成及び学校給食の指針の求める望ましい食習慣を養うという観点からも、給食時間の確保は重要な課題だと思います。市議会でも複数の議員からこの給食時間延長を求める質問がありました。

改めて公立６中学校の給食時間を確認すると、実は武蔵野市は、2007年度までは、全校で弁当だったのです。給食は牛乳だけだったのですが、私もそうだったのですが、その時代、2007年度の昼食時間はおおむね15分程度、それは配膳とかが要りませんので、おおむね15分程度でした。もう直近では今30分程度になっています。ただ、今、新井議員が御指摘になったように、配膳や片づけを加えた時間のため、実際には15分程度というふうに聞いています。

御質問にあった給食センターの食器回収トラックが各校を巡回する時間の関係があるということで、このことを担当課にも確認いたしました。中学校給食は全て桜堤調理場で調理され、食器の洗浄、消毒、保管から逆算して回収時刻が決まっています。回収時刻に間に合う時間内の延長なら、これは各学校で判断できるのではないかということなのです。新井議員はかなりこのことに生徒会長としていろいろと学校ともやり取りをされているようなので、その辺りの事情もある程度お聞きになっているのだと思いますけれども、そういうふうに私は担当課から聞きました。ただ、回収時刻との間に余裕がなければ、各学校の回収時刻を繰り上げる必要が発生するということになります。１つの自動車で１校だけ回収しているわけではなくて、複数の中学校の食器を回収していますので、どうしても早い学校、遅い学校はできますから、その一番遅い学校でも逆算して間に合うという形にした場合に、どのくらい今よりも回収時間が遅くなるのかということを計測しなければならないのかなというふうに思っています。

それから、もう一つ御紹介のあった横浜市の場合は、２つ、横浜市のウェブサイトを拝見したら紹介されていまして、１つは、各中学校長に昼食時間を見直すよう依頼するということと、もう一つは、昼食時間終了後の昼休みも昼食を続けることが可能ということが書かれていました。よく私も、昔は小学校でも中学校でも、給食を残すと、食べ終わるまで何か食べ続けなければいけないみたいなことを私が小さい頃は聞いていたのですが、小学校だと昼食の後は清掃ですよね。でも、中学校は多分、清掃は放課後といいますか、授業の後だと思うので、休み時間だと思います。ですから、昼食時



間終了後の昼休みに昼食を続けるということは、これはその次の授業にも影響しませんので、横浜市のような取組も一つの方法なのではないかなという、これは回収時間との間で余裕があれば、多分各学校の判断で可能ではないかと思われます。

今日新井議員が御指摘いただいたように、学校単位での解決は、私もこれは難しいと感じました。あれこれいろいろなところに振って恐縮なのですが、今日の質問は吉原教育長も聞いていらっしゃいますので、そして、これは市議会でも既に取り上げられている課題ですので、しっかりと、今日も中学生議会で中学生の皆さんが取り上げたということを踏まえて、さらに前向きに検討いただきたいと思っております。

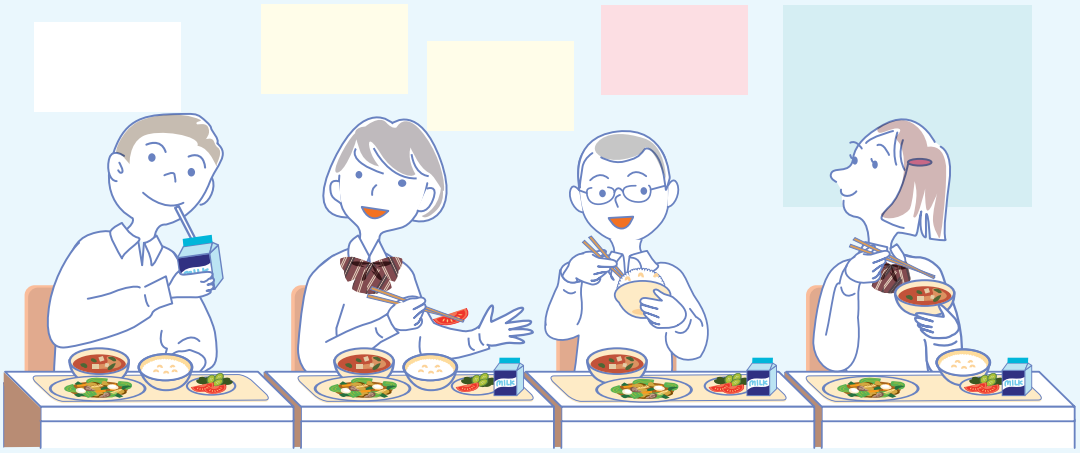
以上、答弁といたします。

○**議　長（木﨑　剛君）**　第一中学校は、ただいまの一般質問に対する感想をお願いいたします。

○**１　番（松田　倫君）**　今日はこのような場で提案する機会を設けていただき、ありがとうございます。中学生の私たちが実際に議会に出て議員として提案するという貴重な体験をすることができました。また、議会に参加することで、今まであまり関わってこなかった、武蔵野市をよりよくするためにどうすればよいかということを深く考えられるようになったと思います。本当に本日はありがとうございました。

以上です。

○**２　番（新井　純君）**　本日はこのような場を設けていただきありがとうございました。私たち一中生の意見を直接届け、議員の皆様にも御答弁をいただくことができて、正直うれしかったです。ほかの中学校から出た意見も、あっと驚かされるようなものばかりで、貴重な経験になりました。本日はありがとうございました。（拍手）



第３　一般質問④

第三中学校
校庭に照明設置、中学生以上のボール遊びができる公園、女子大通りの歩道の拡張について

○議　長（木﨑　剛君）　次に、校庭に照明設置、中学生以上のボール遊びができる公園、女子大通りの歩道の拡張について、第三中学校、６番藤井恵太議員、７番中村悠杏議員。

（６番　藤井恵太君、７番　中村悠杏君　登壇）（拍手）

○７　番（中村悠杏君）　これから武蔵野市立第三中学校の発表を始めさせていただきます。中村と。

○６　番（藤井恵太君）　藤井です。

第三中学校からの提案は３つあります。１つ目は、校庭への照明設置に関する提案、２つ目は、中学生以上がボールを使える公園の確保について、そして３つ目は、女子大通りの歩道拡張についてです。

○７　番（中村悠杏君）　まず、校庭への照明設置についてです。冬になると、日が暮れる時間が早くなり、部活動が終わる頃には外が真っ暗になっています。特に、野球部やサッカー部など校庭を使って活動する部活動は、夏には活動時間が16時から18時までの２時間であるのに対し、冬は16時から17時までの１時間ほどとなり、ボールを使った練習が十分にできなくなります。また、暗い中での活動は、ボールが見えにくくなったり、人とぶつかったりしてけがをする危険性も高くなります。

私たちは、このような状況を改善するために、校庭へ照明を設置することを提案します。照明があれば、冬でも明るい環境で安全に活動をすることができ、部活動をより充実させることができます。また、安全に練習ができることで、けがの防止にもつながると考えます。

しかし、このような提案には課題もあります。第三中学校の周りには住宅が多くあるため、照明を設置すると、近所の方の家に光が差し込み、生活の迷惑になってしまう可能性があります。また、夜遅くまで照明をつけていると、人が集まり、話し声などの騒音を心配する方もいるかもしれません。

そこで、照明を使用する時間を決め、必要な時間だけ点灯することや、住宅の方向へ光が入らないように、照明の向きや角度を工夫することが解決策として考えられます。このような工夫をすることで、地域の方への影響をできるだけ少なくしながら、安全な部活動の環境をつくることができると考えます。地域の方々の理解と協力が必要になりますが、生徒が安全に部活動に取り組める環境を整えるために、校庭への照明設置について、ぜひ考えていただきたいと思います。


７番　中村　悠杏　君

次に、中学生以上がボールを使える公園の確保についてです。中学生以上がボールを使用することのできる公園の確保を求める理由は、放課後や休日に友達とボールを使用して遊んだ

り、自主練習等をするときに場所が限られてしまうということがあるからです。中学生以上がボールを使用することのできる公園の数が少ない理由として考えられるのは、ほかの利用者とのトラブル防止、事故及びけがの防止、近隣住民への騒音問題などが挙げられます。設置する場合は、これらの課題を解決する必要があります。例えば、仕切りを複数個設置する、中学生だけが使用できる場所をつくる、使用できる時間を設定するなど、様々な考えが出ました。



６番　藤井　恵太　君

○６　番（藤井恵太君）　中学生以上がボールを使用することのできる公園を武蔵野市の様々な場所に作ってほしいです。様々な場所ということが重要で、同じ場所ばかりにつくっても、一部の人が使用できるだけで、現状とあまり変化がないと思います。多くの人が多様に使用できる公園は、少数ではなく多くの数が必要だと思います。そのため、私たちは、中学生以上がボールを使用することのできる公園の設置を提案させていただきました。

最後に、女子大通りの歩道の拡張についてです。女子大通りは、第三中学校に通う多くの生徒の通学路です。しかし、歩道の幅は狭く、朝や夕方などの登下校時間には、多くの生徒や地域の方、自転車が利用するため、安全に通行することが難しい状況となっています。特に、雨の日は傘を差して歩くため、さらに歩道が狭くなり、１人でも歩きにくくなることがあります。そのため、やむを得ず車道にはみ出してしまう場面もあり、大変危険です。さらに、歩道のすぐ横を自転車が通行することも多く、歩行者との接触事故が起こる危険性もあります。

また、この道路にはガードレールが設置されていないところがあります。歩道と車道の間には段差もあるため、人とぶつかったり足を踏み外した際に車道に転落し、走行中の車と接触するおそれもあります。このような状況では、生徒だけでなく、小さな子どもや高齢者を含む地域住民にとっても安心して利用できる道路環境とは言えません。そのため、歩道を拡張して歩行者が十分なスペースを確保することで、交通事故の防止や安全性の向上につながります。



一方で、歩道の拡張には、道路沿いの住民の理解と協力が必要であり、工事費用や工事期間の確保といった課題もあります。しかし、毎日多くの人が利用する通学路だからこそ、安全を一番に考え、地域住民や市が協力して安心して通れる道路にしていくことが大切だと考えます。誰もが安心して通行できる道路環境を実現するために、歩道の拡張について、ぜひ検討していただきたいと思います。

以上です。御清聴ありがとうございました。



第三中学校への答弁　落合委員

○**１１番（落合勝利君）**　それでは、第三中学校の藤井さん、中村さん、そして今日は都合により欠席となりましたが、玄番さんからも、大きく３点、校庭への照明設置に関する提案、それから中学生以上がボールを使える公園の確保について、そして女子大通りの歩道拡張についての御提案をいただきました。今回の提案は、これまで市議会の中でも度々、議員が提案、取り上げてきた課題でもありまして、こちらにいらっしゃる小美濃市長も常々課題として指摘をされていたことで、今回中学生の皆さんが率直な意見として提起されたことは本当にありがたく、また、真摯に受け止めていかなければいけないものとして捉えているところです。

さて、提案の１点目の、まず校庭への照明設置に関する提案についてであります。まず、市の基本的な考え方として、暗くなったときの部活動に対して照明設備があったほうが部活動もできるということは理解されているところではあるのですが、近隣の方々への配慮を十分に加味する必要があり、照明設備の設置が長らく実施できていなかったという現況から考えても、大変困難な状況にあるのかなと考えています。この点は、先ほどの提案内容から、中学生議員の皆さんも十分に理解をされているものと思います。

文部科学省が示している中学校施設整備指針、屋外計画の章というものがあるのですが、この屋外運動施設については、次のような記載があるのです。抜粋になりますけれども、必要に応じ、周辺住民等への影響に配慮しつつ夜間照明等の設備についても計画することが望ましいと。ここにある「望ましい」というのは、より安全に、より快適に利用できるように備えることが望ましいものという意味でありまして、必ずしも設置しなければならないというものではないのですけれども、設置の可能性を示しているものだと私は考えています。ただし、ここにもありますとおり、周辺住民への影響に配慮が必要とされていることからも、この点はやはり重視していかなければいけないのかなと思っています。

ただ、市民生活のライフスタイルも日々変化しておりますし、かつては受け入れてもらえなかったものが、やはり皆さん市民の方々の考え方も変わっておりますし、そういう意味では、皆さんの置かれている現況を近隣の方々にもよく理解してもらって、協力いただけるよう努めながら、環境の改善に向けて取り組んでいくことが大事なのかなと考えております。私たちも一緒に考えていきたいと思いますし、こちらにいる教育長も、恐らく大事だなというふうに思っていらっしゃると確信しておりますので、共に頑張っていきたいと思いますので、そのようにお答えをさせていただきたいと思います。

次に、２点目の中学生以上がボールを使える公園の確保についてですけれども、まず、中学生がボールを使用できる施設は、先ほどの提案の中でも触れられておりましたが、市役所に隣接している緑町スポーツ広場、都立武蔵野中央公園のグラウンド部分、それから総合体育館に限られておりまし

て、公園においてはボールの使用が禁止されているというような状況であります。

その理由なのですけれども、まず１つが安全面の懸念。これは、小学生ぐらいまでだと、体力もまだそこまで強くもなくて、安全かどうかといえば、安全でない部分もあるのかもしれませんけども、中学生以上になると体力も増強しますし、そういった中でボールを使うことで、ほかの利用者さんに危険な場面が生じてしまうという、そういったことも一つの大きな懸念材料として指摘をされているところです。

もう一つが、近隣への配慮。これは、ボールを使うことで、公園利用をされている方は本当に若い方から高齢者の方まで多数いらっしゃいますけれども、そうした方々への配慮がやはりどうしても必要だと、そういった大きな理由から禁止をされているというのが現状であります。

また、新たにボール遊びができるような整備を検討、現状、市のほうではされていないということなのですけれども、その大きな理由としては、施設面の課題、これは、防球ネットなどの設置や防音対策の整備がまず困難であるということが１つ。２点目には、運営面の課題、これは公園ごとのルールづくりや近隣住民の理解と同意が必要。そして３点目には、地理的・環境的課題。これは、ボール遊びが安全にできる広い公園というものが武蔵野市は本当に少なくて、一定程度広さを持った公園がなかなかないという、そういった地理的な課題を抱えているという状況であるということであります。面積の狭い武蔵野市では公園設置そのものが大きな課題でもあり、また、一定の広さを持った公園となると、さらに困難な課題を抱えています。

とはいえ、中学生の皆さんがボール遊びや自主練習等で利用したいという思いは、私たちも重々承知をしておりますし、市としても、皆さんの要望をかなえてあげたいという思いは共通して持っていますので、改善に向けて取り組んでいきたいと考えています。現状を踏まえた上で、公園ごとのルールづくりや近隣の方々へのアプローチについては、改善に向けての余地はあるものと思っておりますので、共にこれも頑張っていきたいなと考えています。

次に、３点目の女子大通りの歩道拡張についてであります。

まず前提として、女子大通りは都道、東京都の道路であります。先ほど一中さんのほうから五日市街道の件が提案されておりましたけれども、同様に、これも東京都が管理をし、整備そのものは東京都が行っていくという道路になっておりまして、市が直接整備をできるというものではないということは先に申し上げておきたいと思います。その上で、御提案いただいた課題は、多くの市民からも御要望が寄せられておりまして、私たちも本当に多くの議員が何とかしたいと考えているところであります。特に、沿道にお住まいの小美濃市長が一番よく理解をされている課題かなというふうに思っております。



女子大通りの整備については、東京都の計画では、平成28年に策定された優先整備路線に指定されて、道路幅16メートル、先ほど五日市街道でもありましたけれども、同様に16メートル

の幅、そのうち両側に２メートル程度の幅の歩道を設置するというような計画となっているのですけれども、沿道にお住まいの方々が、この16メートルの道路を造ることについてはなかなか同意を得られていないという、そういう状況です。理由としては、現在の敷地が大幅に削られることによって、生活環境に大きな影響を及ぼすことになるというものが主なものでありますけれども、現在の歩道の状況を改善して安全な環境の創出についてはできる限り協力をしたいという、そういった市民の方々も多くいらっしゃいます。



そうした中で、市や東京都、また、地権者の協議は断続的に進められておりまして、現状でできる整備は少しずつ対応を進められているところであります。現在は、部分的ではありますけれども、歩道の整備、東京都も取り組んでいるというようでありますので、いずれにしても、御指摘いただいたように、狭い歩道での危険な状況があることは現実でありまして、環境の改善は大事な取組でありますので、私たちもしっかり力を尽くしていきたいというふうに考えております。

以上、いただいた要望に対してすぐ実現できるような回答になっていないのは大変心苦しいのではありますけれども、これからの武蔵野市を担う皆様の声を重く受け止めましたので、実現に向けて私たちも努力をしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上です。ありがとうございました。

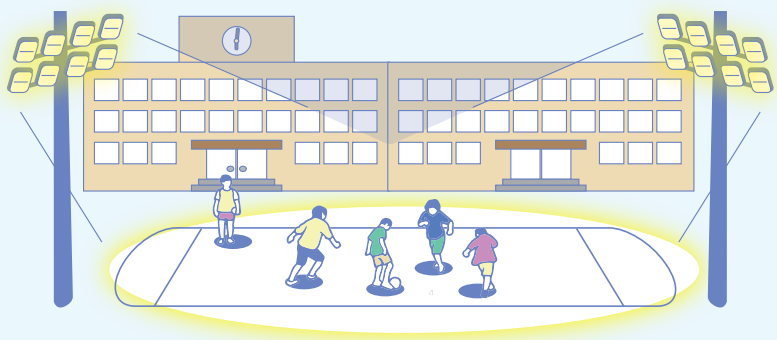
○**議　長（木﨑　剛君）**　第三中学校は、ただいまの一般質問に対する感想をお願いします。

○**６　番（藤井恵太君）**　今回の中学生議会を通して、自分の住んでいる武蔵野市について考えるいい機会になりました。また、私たちの提案に対して、自分たちで調べられていなかった細かいところまで丁寧に回答してくださって、ありがとうございます。議員として議会に参加するという貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

以上です。

○**７　番（中村悠杏君）**　御回答ありがとうございました。武蔵野市についてしっかり考える貴重な機会となりました。これからも武蔵野市について、自分なりに、よりよくなるよう考えていきたいと思います。

以上です。（拍手）



第３　一般質問⑤

第二中学校
通学路の安全対策、バスケットコートの設置、
暑さ対策のインフラ整備について

○**議　長（木﨑　剛君）**　次に、通学路の安全対策、バスケットコートの設置、暑さ対策のインフラ整備について、第二中学校、３番藤本　廉議員、４番古賀俊也議員、５番岡本美咲議員。

（３番　藤本　廉君、４番　古賀俊也君、５番　岡本美咲君　登壇）（拍手）

○**４　番（古賀俊也君）**　こんにちは。古賀俊也です。これから武蔵野市立第二中学校の発表を始めさせていただきます。僕からは、通学路の安全対策について、藤本からは、バスケットコートの設置について、岡本からは、暑さ対策のインフラ整備について提言させていただきます。



４番　古賀　俊也　君

まず、通学路の安全対策についてです。舞台となるのは、第二小学校の前の交差点です。危険な場面を目撃して、ひやりとしました。この交差点は歩行分離式信号で、車道側は赤信号です。しかし、歩行者用信号が青に変わった瞬間、停車していた車が青信号につられたように、すっと動き出したのです。幸い、車はすぐに止まりましたが、ここには間違いなく危険が潜んでいます。なぜこのような危険な誤発進が起きてしまうのでしょうか。原因は、人間の脳の錯覚です。

スライドをよく見てください。今、皆さんは車の運転席にいます。目の前の信号は赤です。いかがでしょうか。視界の左側がぱっと緑色に光りました。一瞬進んでもよいと思ったのではないでしょうか。ですが、正面の信号はまだ赤のままです。それなのに、視界の端に緑色が見えただけで、脳は判断をショートカットして車を進めてしまう、これこそが私が目撃した危険の原因です。

そこで私は、設備の工夫と調査、共有という対策を提案します。

１つ目は、物理的な解決策として、歩行者用信号への遮光板の設置です。先ほど皆さんが体験した視界に入る緑色の光を物理的に見えなくすることで、脳の勘違いの原因をなくします。

２つ目は、運営面の対策として、児童を対象にしたヒヤリハット調査、アンケートの実施です。通学路を毎日使う子どもたちは身長が低く、大人とは違う景色を見ています。彼らが実際にどこで怖いと感じたか、事故が起こる前に、その声を拾い上げることが重要です。

３つ目は、アンケートから見えてきた情報を地域独自の交通ハザードマップとしてまとめることです。これを学校や警察、地域で共有することで、この交差点は青になっても必ず車の動きを見てから渡ろうといった安全意識を地域全体でアップデートすることができます。

交通安全は、命に関わる重要な課題です。被害が起こる前に、ぜひ対策をお願いします。

以上で私の提言を終わります。



３番　藤本　廉　君

○３　番（藤本　廉君）　次に、藤本から、バスケットコートの設置について提案させていただきます。現在武蔵野市には、大人数で利用できるバスケットコートが数えるほどしかありません。一方で、ほかの自治体に目を向けると、川崎市では、地域活性化を目的としたバスケットコートの設置が進められています。そして、仮運用を経て利用者からの好評が多数寄せられたため、市内の複数の公園にバスケットコートが整備されています。川崎市では、このようにバスケットコートの整備が進められてきましたが、一方で、設置後には騒音などの課題も発生します。そこで、整備を検討する際には、周辺環境に配慮した具体的な設置条件を定めることが重要です。これは川崎市でも実際に採用されている方法です。

その中でも、管理面積2,000平方メートル以上という条件に注目しました。武蔵野市のホームページを確認したところ、この条件を満たす公園は30か所以上ありました。スライドには、その対象となる公園を一覧で示しています。つまり、武蔵野市にもコートを設置できる候補地は十分にあると考えられます。

また、バスケットコートを設置する具体的なメリットとして、大会やイベントなどを開催することで、市外から人を呼び込めることが挙げられます。それによって、飲食店、コンビニなどの地域のお店の利用が増え、地域経済の活性化にもつながると考えられます。

その具体例として、代々木公園では毎年、ＡＬＬＤＡＹをはじめとするバスケットボールイベントが開催されており、約800人の選手と数千人の観客が集まります。こうしたイベントでは、周辺店舗の利用促進や地域のにぎわいづくりもつながっています。

以上のことを踏まえると、都立武蔵野中央公園のように、管理面積が十分にあり利便性の高い公園でバスケットコートを整備することで、市民のスポーツ環境を充実させるだけでなく、地域の活性化や交流人口の増加にもつながると考えます。

以上です。



５番　岡本　美咲　君

○５　番（岡本美咲君）　最後に岡本から、暑さ対策インフラについて提言させていただきます。最近は一段と暑い日が続いていますね。気象庁のグラフからも分かるように、夏の平均気温は年々上昇していることが読み取れます。去年は何と約28度にも達しました。そこで私は、小・中学校の校庭やテニスコートの一部に日除けシェードやドライミストなどの暑さ対策イン



フラを整備することを提案します。

その理由は主に２つあります。

１つ目は、学びや部活動の機会をこれ以上奪われない環境をつくるためです。ここで、議場の皆さんに質問です。皆さんが中学生だった頃、夏の校庭やテニスコートはどんな場所でしたか。休み時間に友達と汗を流して全力で遊んだり、部活をしたよい思い出の場所だったのではないでしょうか。しかし、私たちが今過ごす夏は、皆さんの頃とは異なるものとなっています。

こちらのグラフを見てください。これは、東京都の年間真夏日日数、猛暑日日数のグラフですが、これらはともに年々増加傾向であることが分かります。その影響で、私たちは休み時間に校庭で遊ぶことや、屋外で活動する部活は活動を制限されることが増えてしまっています。

そこで、日除けシェードとドライミストを導入することの効果をお伝えします。まず、日除けシェードですが、直射日光と地面からの照り返しを遮断することができるので、体感温度を約７度から10度下げることができます。それを校庭の一部やテニスコートなどに設置した場合、生徒はその下で休憩を取ったり給水をすることができます。また、日除けシェードをヘチマや藤棚のような植物を使ったグリーンシェードにすれば、暑さ対策だけでなく、地球温暖化対策としても効果がありますし、加えて、学校の壁にグリーンカーテンを設置すると、エアコンの効きがよくなり、省エネにもつながります。

次に、ドライミストですが、空間の温度を最大４度下げられ、粒が極めて小さいため、服や髪をあまりぬらすことなくひんやり感を与える効果が期待できます。さらに、部活動や体育で暑くなった体を冷やし、熱中症を防ぐ効果もあります。暑さ対策のために外に出ないのはもちろん大切ですが、これからは、このような暑さ対策インフラの設備を導入して、夏でも安全に活動できる環境をつくるということも視野に入れていくべきだと考えます。

２つ目は、私たちの住む環境を私たち自身が守る意識を持つためです。具体的には、グリーンカーテンの管理や日除けシェード周辺の掃除、毎日の温度の記録など、中学生が委員会活動や係活動として自主的に責任を持って行うようにしたいです。これは、設備導入だけでなく、それを中学生自身が維持管理に参加していく、これは、武蔵野市が目指す市民参加と自治や地球に優しいゼロカーボンシティの実現につながります。環境問題を自分事として捉えながら、暑さ対策インフラを運用していくことで、私たちも環境に対する意識を持てるようになると思います。

このように、生徒の学び、遊びの機会を減らさないこと、自分事として環境を守るという２つの観点から、私はこの設備の導入を提案します。

これで武蔵野市立第二中学校の発表を終わります。御清聴ありがとうございました。以上です。

○５　番（東山あきお君）　東山あきおと申します。二中のお三方からの御提案にお答えします。



第二中学校への答弁　東山委員

改めて、今日はお休みにもかかわらず、わざわざ緊張する場面に出てこられて、市の課題を真剣に考えて質疑をされ、本当にすばらしいなと思います。その若さと情熱に敬意を表したいと思います。

各質問に入る前に、本当に、古賀さんのプレゼンスライド、ＡＩを使って歩車分離式の信号のイメージ図みたいなものを作ってプレゼンに載っけていて、本当にすごいなと思いました。車を運転して自撮りしたわけではないですよね。あれはＡＩですよね。ああいうものを使うと、本当にこういう課題があるのだということがすごく分かりやすく頭に入ってきて、そういう使い方があるのだと思って、大変勉強になりました。

あと、他校さんに比べると、やや各スライドのフォントとかがそろっていなかったりとかしたので、それは他校さんのスライドをぜひ参考にしていただければと思いますが、ただ、プレゼンの話の持っていき方というのは、お三方とも大変すばらしかったなと思います。

まず、１つ目についてです。このテーマについて、実際の市の職員の方、つまり、日頃から24時間365日このテーマについて考えているプロの方に意見を聴いてみました。すると、本当にいろいろな面から興味深くて、ユニークな意見だったと、市の職員からフィードバックをもらいました。プロが認めたいい視点だったということでございます。何と、その市の方から、こういう信号を管理するような管理者の武蔵野警察署さんにヒアリングをしていただきました。警察署からの見解としては、こうした歩車分離式の信号においては、車両の運転手が歩行者用の信号と車両用の信号を見間違えて発進することを防止するために、そういった歩行者用の遮光板を設置することはできないと。遮光板というのは、あくまで連続した信号において奥にある信号の誤認を防ぐために設置をしているので、なかなか警察としては、車両用の信号の上または下にそういった一部歩車分離式の看板を設置することで、一定対策ができているというような回答でございました。



２つ目と３つ目のこのアンケートとかハザードマップについては、実施はしていないのですけれども、新小学校１年生向けに、近くで実際



に事故が起こった場所の地図を配置されているそうです。また、既に教育委員会、警察署、あと市の関係部署などが参加をされて、安全な通学路の構築に向けて、通学路合同安全点検を令和６年度より12校、３年度に分けて点検を実施されているということでございます。これは、各小学校にて把握している情報とか、ＰＴＡとか情報収集をして、通学路の危険箇所というのを抽出してもらって、それで対策をしているということでございます。既にただ対策はしているものの、確かにおっしゃるとおり、個人的には、学生目線の、子どもたちから見た地域独自の交通ハザードマップのアップデートみたいなものは確かにしてもらってもいいのかなと思いましたので、これは確かに一議員として提案してみたいなと思うような内容でございました。いずれにせよ、本当の市の職員をうならすいい質問だったと思います。

２つ目、バスケットボールコートを作るということで、これは、ただ作るというだけではなくて、川崎市さんの事例とか代々木公園の事例も含めて、イベントをやって地域を盛り上げようと、そういう多角的な視点を持ったすばらしい提案だったと思います。これも話の持っていき方次第では面白くなりそうだなと思いました。

ただ、基本的に、先ほども三中さんの件でもありましたけれども、バスケットコートだけではなくて、そもそもボール遊び自体、この市内でやるというのはなかなか難しい状況にあります。三中さんとのやり取り等あるので、ちょっと省くのですけれども、なかなかそういうわざわざ屋外で公的な施設の中にバスケットボールコートを作ることは、今すぐは難しいというような答弁なのかなと思います。ただ、プラスアルファとして、もし私が中学生議員もしくは市の担当職員で、そうした提案をしたいと思ったならば、ほかの既存の政策と併せて提案してもいいのかなと思います。

武蔵野市にはＶＴｕｂｅｒの七転さらさという人がいるのですけど、知っていますか。若者向けのものなのですけど、これは若い人に健康に関心を持ってほしいと思って担当課が始めたものなのです。このさらささんと、例えばスポーツメーカーとコラボする形で、若い世代の健康と運動を啓発するイベントをこの市内でやりましょう、期間限定でバスケイベントをやりませんかみたいな提案だと、既存の、既に予算があるものに対して何か追加でコラボしませんかみたいな提案になるので、既存の市の事業の底上げとコラボとかやると、何か話が通りやすいのかなとも思ったのですけど、ぜひ

そういうＶＴｕｂｅｒとかも何か見ていただけるとありがたいということと、あと、市のこれまでの既存の政策についてもちょっと勉強していただけると、何か提案の深みが出るのかなと思います。

最後、３つ目については、本当におっしゃるとおりで、プレゼンの内容も、市のそもそも掲げているような、市民参加と自治とかゼロカーボンシティといった分野にもかこつけて、非常に重要であるというような話の持っていき方はすごくきれいで、プレゼンとしてまとまっており、すばらしいなと思いました。そして、議員たちの年代も何となく把握した上で、皆さんの年代よりも今は暑いのだ、だから必要なのだという非常に説得力のあるすばらしい提案だなと思いました。ただ、これは実際に導入している学校も日本全国にあるので、その事例とか予算感みたいなものも調べたら出てくるので、二中の具体的にどこにつけてほしいとか、そういった具体性があると、より検討しやすいのかなと思いました。具体的にどの設備をというのは申し上げられないですけど、僕自身、研究して提案してみたいなというようなすばらしい３つの内容でございました。

ありがとうございました。以上です。

○**議　長（木﨑　剛君）**　第二中学校は、ただいまの一般質問に対する感想をお願いします。

○**３　番（藤本　廉君）**　まずは、このような機会をいただき誠にありがとうございます。自分がちょっと考えつかなかったような方向からの意見というのをもらって、自分の中でも新鮮だったので、今後の学校生活にも生かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

○**４　番（古賀俊也君）**　このような中学生議会という機会をいただきありがとうございました。この機会で身近な生活についても見直すことができました。今後とも、市民としての自覚を忘れずに、一員として頑張っていきたいと思います。

○**５　番（岡本美咲君）**　まずは、本日このような貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。また、本日までたくさんのサポートをいただきまして、本当にありがとうございました。私たちが今回提案したことによって、武蔵野市が少しでもよりよいものになればうれしいです。

以上です。（拍手）



第３　一般質問⑥

第六中学校
自転車通学と学校内でのバリアフリーについて

○**議　長（木﨑　剛君）**　次に、自転車通学と学校内でのバリアフリーについて、第六中学校、13番青木俊二議員、14番鈴木琢斗議員。

（１３番　青木俊二君、１４番　鈴木琢斗君　登壇）（拍手）

○**１４番（鈴木琢斗君）**　こんにちは。武蔵野市立第六中学校の鈴木と。

○**１３番（青木俊二君）**　青木です。

○**１４番（鈴木琢斗君）**　私たちのテーマは、自転車通学と学校内でのバリアフリーについてです。

まず初めに、私たちが日常で感じている通学上の課題と、その解決策としての自転車通学の許可について提案させていただきます。



14番　鈴木　琢斗　君

武蔵野市では近年、拠点校部活制度が始まりました。この制度により、他校へ移動して部活動をする生徒が増えたため、自転車安全利用講習会の受講や自転車保険の加入を条件に、学校間での自転車移動が許可されるようになりました。現在では、多くの生徒がこの制度を利用して安全に移動を行っています。

一方で、毎朝の通常の通学に目を向けると、学校から遠い場所に住んでいる生徒や、通学区域外に住んでいる生徒は、徒歩での通学だけでも30分ほど時間がかかってしまいます。それにもかかわらず、自転車での登校が許可されていないため、毎朝、ほかの人よりも早い時間に起床し、早い時間に家を出る必要があります。そこで私たちは、自転車通学を許可することで、このような問題を解決できると考えました。具体的には、自転車通学の実現に向けた２つの問題点について解決策を提案します。

まず、自転車通学の安全性についてです。自転車通学の場合、どうしても徒歩での通学と比較して事故が起こりやすくなってしまいます。そこで、拠点校部活制度と同様、自転車安全利用講習会の受講と自転車保険の加入、ヘルメットの着用を義務づけ、その上で、定期的に校内の校庭でも自転車の安全指導を行うことで、事故を防ぐことができます。

次に、自転車の置場についてです。駐輪場は、学校の空いているところ、例えば第六中学校であれば、テニスコートの入り口付近などに設置します。また、２段式の自転車ラックを使うことで、自転車の利用者が多くても、場所を削減することができます。

私たちが今、自転車通学の導入を提案する理由は、近年の社会環境の変化にあります。最近では、地球温暖化が進み、気温が40度以上の日を酷暑日と呼ぶようになりました。熱中症の危険が高まり、通学するだけでも運動後のように服が汗でぬれてしまいます。さらには、少子化や部活動の活性化の

ため中学校の統廃合が検討されるなど、中学校の数も少なくなることが予想されます。統廃合が実現すると、学区域が今よりさらに広くなり、学校から家の距離が遠くなる生徒が増えてきます。生徒の健康と安全を守り、これからの通学環境の変化に対応するためにも、自転車通学を実施することがこれから大切になってくるのではないでしょうか。ぜひ前向きに御検討をお願いいたします。

○**１３番（青木俊二君）**　私の学校では、先生が松葉づえをつきながら階段を上り下りしている姿を見たことがあります。そして、私からの提案は、スロープを設置することです。松葉づえを使って階段を移動することはとても大変で、一歩一歩慎重に進まなければならず、転倒の危険もあります。その様子を見て、学校は毎日多くの人が利用する場所なのに、けがをした人が安心して移動できる環境が十分ではないのではないかと感じました。



13番　青木　俊二　君

　バリアフリーという言葉を聞くと、高齢者や障害がある人のためのものというイメージを持つ人がいるかもしれません。しかし、実際には、私たちもスポーツ中のけがや交通事故などで一時的に松葉づえや車椅子を利用する場合もあると思います。私たち中学生も部活動や体育の授業でけがをする可能性があります。つまり、バリアフリーは、一部の人だけではなく、誰にとっても身近な問題なのです。先生が移動しづらければ、授業にも影響が出るかもしれませんし、生徒がけがをした場合も、安心して学校生活を送ることが難しくなります。

　そこで私は、校内の段差や階段の近くにスロープを設置することを提案します。もちろん、全ての階段にスロープを設置することは難しいと思います。しかし、昇降口や保健室の近く、職員室へ向かう通路など、利用する人が多い場所や段差が比較的小さい場所から整備を進めていくことで、より安全で移動しやすい学校になると考えます。

　また、スロープがあれば、けがをした人だけではなく、重い荷物を運ぶときにも役に立ちます。学校では、教材や備品を運ぶ機会も多くあります。キャスターつきの台車なども利用しやすくなり、先生の負担を減らすことにもつながります。このように、１つの設備が様々な場面で役立つことも大きなメリットです。もちろん、スロープを設置するには、大きな費用がかかります。そのため、一度に全ての場所へ設置することは難しいかもしれません。しかし、学校の改修工事や設備更新の機会に合わせて計画的に整備を進めれば、費用を抑えながら安全性を高めることができます。

　また、実際に先生や生徒にアンケートを行い、どの場所が一番スロープを設置するのが適しているかを調べて優先順位を決めることもできると思います。

　私たちは、健康なときに階段は何気なく利用しています。しかし、自分がけがをしたときには、ふだん気づかなかった不便さを実感するはずです。だからこそ、困っている人がいる今、学校全体でより利用しやすい環境について考えることが大切です。私は、誰もが安心して通える学校とは、困っている人が特別な思いをしなくても生活ができる学校だと思います。バリアフリーは特別な人のためで

はなく、将来の自分や友達、先生のためにも必要なものです。そこで、市や教育委員会には、武蔵野市の学校におけるバリアフリーの状況を確認し、けがをした人でも安心して移動できるよう、校内のスロープ設置を計画的に進めていただくことを要望します。

以上で私の提案を終わります。

○２２番（山本ひとみ君）　それでは、第六中学校で議員として一般質問をしてくださいました青木俊二さん、鈴木琢斗さんからの２点の一般質問に対してお答えをいたします。



第六中学校への答弁　山本委員

初めに１点目ですが、今日も自転車の問題、何件も出されましたけれども、自転車通学に関わる課題と、通学を許可してもらいたいというような御提案をいただきました。これ、通学に関しては、どこが確認をしているのかということを私も調査いたしましたが、これは教育委員会ではなくて、各学校で決めることになっております。一般質問でもありましたように、今、拠点校で部活をする生徒の方には自転車通学が許可されており、また、今日もありましたが、暑さが大変厳しくなって、35度を超える気温の日も珍しくないという中で、時間をかけて通学をするということに一定の困難さを感じるというのは、私も同感しております。

それで、私の子どもも六中を卒業しまして、もう大分前なのです、20年ぐらい前なのですが、境南町から歩いて通学していました。今とその頃とはかなり自転車をめぐる環境も変わったと思っています。部活を行うために自転車を使う生徒がいる一方で、徒歩で汗を流して通学する生徒がいるという状況に関しては、不公平感を感じる方がいるのも事実ではなかろうかと思っております。

通学時間を確認したいと思いまして、私も境南町１丁目の日赤病院の裏、南側、塚の交差点のところに行って、六中まで歩いたわけなのです。距離では大体1.8キロぐらいだと思うのですけれども、私自身は大学の南側を通って、それから曲がって西側を歩き、鉄道の高架から真っすぐ北へ向かったのですが、鉄道高架まで大体16分ぐらいだったのです。やはりちょうど28分ぐらい私はかかったのですけれども、六中から最も遠いところから通学すると約30分はかかるのだなと思いまして、これは大変なことだなというふうに私は感じました。

御提案の中に、自転車の安全講習会の受講と自転車保険の加入、ヘルメット着用の義務づけ、定期的に校庭での自転車の安全指導を行うことが言われており、この安全を大事にするという姿勢は明確に示されたと私も感じております。実際に武蔵野市で今年３月に出された武蔵野市自転車等総合計画というのがあるのですが、その中には、やはり自転車が関与する事故というのは、近隣の他市よりもかなり高いと。武蔵野市は自転車をよく利用されておりますが、事故に関してもあって、例えば歩道を歩いていたら、後ろから自転車が来て怖かったとか、いろいろなケースがございます。今、安全講習会は、市の会議室や、吉祥寺ゼロワンホールや、武蔵境スイングビルの会議室などでも行われておりますが、中学校でいえば、スタント講習と言われているスタントマンが出る講習も、３年間で市内

の６つの中学校を全部回って行っているというふうに伺いました。



ちなみに、市の令和６年度事務報告書によれば、このスタント講習というのは、令和４年度で709名、令和５年度では1,055名、令和６年度で615名の受講者がありまして、ぜひこれは中学生が参加しやすい講習の設定と周知が大切だなというふうに感じております。

さらに、今日の一般質問の中で、自転車ラックに関しても、２段式にして、テニスコートの入り口辺りはどうかというような具体的な提案もありまして、いろいろな点を配慮されていると私も感じております。

したがって、安全性ということに関しては懸念を持つ方も多いかと思うのですけれども、生徒の皆さんの中で自転車通学を望む声があるということを、ぜひこれは学校が受け止めていただきまして、安全性を確認した上でルールをつくるなど、何らかの形で認めていただければいいのではないかというふうに私は思ったということをお伝えしたいと思います。

２点目、学校のバリアフリーの問題について御答弁を申し上げたいと思います。皆さんが今日提案されたものの中で、バリアフリーという言葉を聞くと、高齢者や障害のある方のためのものというイメージを持つ方もいるかもしれません。そして、私たち中学生も部活動や体育の授業でけがをする可能性があります。つまり、バリアフリーは一部の人だけでなく誰にとっても身近な問題なのですということを発言がありまして、私もこれは本当に深く同感をいたしました。これは、松葉づえを使っていらっしゃる教師の方を見てこうした思いを持つようになったということですが、確かに学校は多くの方が出入りしますので、幅広い方に対応できる設備が必要とされると思います。

私もかつて六中に行っていたときに、けがをして松葉づえを使ったことがあったのですけれども、階段の下で、どうしたらいいかと大変困惑をした思いがあります。それで、今、社会的にもバリアフリーという考え方は大変広がっておりまして、国の法律でも、長いのですが、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、これがいわゆるバリアフリー法というものですが、こういうものがありまして、大規模改修とか改築とか大きなときには設備の更新も絶対やらなければということになっております。

今回スロープを御提案され、経済面も考慮されていると私は感じました。設置場所も、昇降口や保健室の近く、職員室へ向かう通路など、利用する人が多い場所や段差が比較的小さい場所を示されたということもよく分かりました。

確かにスロープはエレベーターに比べて安価なのですけれども、面積は一定かかります。私最近、改築された第五中学校と第一中学校を見学しましたが、どちらにもエレベーターがありました。けがをして松葉づえや車椅子を必要とする方、それから妊娠をしたり、幼いお子さんと一緒の方やベビーカーを押している方、スロープであってもちょっとした危険を感じる方や大きな荷物のある方などなど、誰にとっても安全な学校が求められていると思います。ですので、スロープの設置はもちろ



んのこと、エレベーターの設置も検討してよいのではないかなということを私は申し添えておきたいと思います。もちろん、金額の点で、エレベーターを単独で設置すると2,500万円から3,000万円ぐらい費用がかかるということを聞いておりますので、決して安価ではないと思いますが、多くの人が集まる学校のバリアフリー化は重要な内容ではないかと思い、私もこれは改めて要望したいというふうに思います。

そして、今日の御提案の最後にありました、困っている人が多い、今、学校全体でより利用しやすい環境をつくることを考えることが大切です。誰もが安心して通える学校とは、困っている人が特別な思いをしなくても生活できる学校だと思いますというふうに今日も御発言がありまして、この考え方は本当に大切で、私も心が温かくなる思いをいたしました。今後こうしたことを一般質問や、９月にある決算特別委員会等で行政の皆様にもお伝えをいたしまして、学校のバリアフリー化を一緒に考えていきたいと思います。

本日は皆様から貴重な御意見をいただきまして、大変参考になり、ありがとうございました。感謝いたしております。

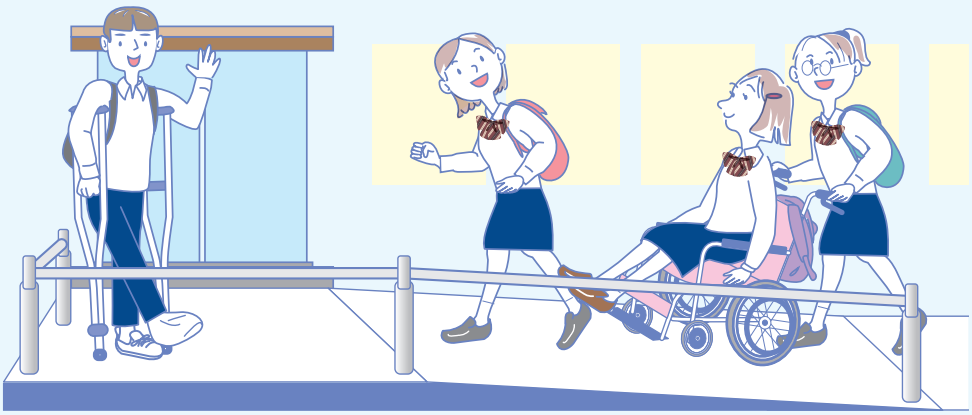
○議　長（木﨑　剛君）　第六中学校は、ただいまの一般質問に対する感想をお願いします。

○１３番（青木俊二君）　まずは、このような機会を与えてくださいまして、ありがとうございます。私がこの提案の内容を考えているときは、３つぐらいしか浮かばなかったのですけど、こんなたくさんの中学校が集まったら、そんな内容が多く集まるのだなと思って、面白いなと思いました。

これで終わります。

○１４番（鈴木琢斗君）　本日は、このように提案させていただく場を設けてくださり、ありがとうございました。また、このような提案に対して、様々な角度から御回答くださり、ありがとうございました。

終わります。（拍手）



○**議　長（木﨑　剛君）**　以上をもって一般質問を終わります。

ここで本日の提案の取扱いについて御報告いたします。

○**２５番（川名ゆうじ君）**　どうも皆さん、今日は御提案たくさんいただきまして、ありがとうございます。この中学生議会を運営しています議会運営委員会の委員長をしております川名と申します。



川名議会運営委員長

今後ですけれども、今日ありました皆さんの提案、答弁の内容、写真等々をまとめた冊子を作ります。これは秋頃に皆さんのお手元に届くかと思います。また、校長先生ですとか、こちらにおります小美濃市長と教育長にもお渡しをしますので、今日の提案がさらによく読み込めるかなと思っております。

また、議会のほうとしましても、全てというわけにはいきませんけれども、実現可能なことについては、各議員が取り上げて、実現に向けて努力をさせていただきたいと思います。こちらの席にいる議会運営の委員だけではなくて、皆様から右手におります市議会議員が、皆さん今日はよく聞いておりましたので、実現に向けて努力をさせていただきたいと思います。今後についても期待していただきたいと同時に、今日皆さんが行ったこの議会の質問というのは、いつも我々市議会が行っている議会の運びとほぼ同じ形なのです。この議場を使って、議長が仕切ってやっています。こういう議会の取組についても今後関心を寄せていただき、また、武蔵野市政にもさらに関心を続けていただきたいと思います。

今日はどうもありがとうございました。

○**議　長（木﨑　剛君）**　以上をもって本日の日程は全部終了いたしました。会議を閉じます。

これをもって令和８年第１回武蔵野市中学生議会を閉会いたします。

○午後４時１１分　閉　会



副議長あいさつ

副議長　西園寺みきこ



本日は、中学生議員の皆さん、お疲れさまでした。そして、小美濃市長、吉原教育長をはじめ、また、傍聴にいらしていただいたたくさんの方々、それから、ここにお見えにはなっていないけれども、それぞれの学校でたくさんの先生方が皆さんのことをサポートしてくださったと思います。いろいろな方々の協力で、今日こういう場がつくれたと思うこと、私から御礼を申し上げます。本当に御苦労さまです。ありがとうございました。

今日のお話の中で、皆さん結構いろいろなことを学んだのではないかと思います。実は、市役所だけでは解決できないことがあって、東京都とか、警察とか、消防とか、いろいろな方々と意見交換しないとなかなか解決できないことも実はいっぱいあるということをきっと理解していただけたかなと思います。まちづくりというのは、本当にいろいろな方々、そして、近隣の市民の方々ともよくよく話をしていかないと、誰かがやると言ったらぱっとできるというものではないということも皆さんよく理解していただけたかなというふうに思います。

皆さんには、先ほどの感想で、これを生かしていきたいという言葉をたくさん言っていただいたから、ぜひそうしていただきたい。必ず役に立つと思います。また、今日の話でも分かるように、ではすぐ来年からと実現できることばかりではない。皆さんがこれから中学を卒業して高校生になったり、選挙権を持つようになったり、それから大人になったときに、今度はそれをつくる側に回っていただく、要望する側からつくる側に回っていただくということをぜひ考えていただけたらなというふうに思います。バスケの大会なんか、実行委員長になったらどうですかと思いました。

それからもう一つは、今回、皆さんのプレゼンがすごく上手になってきていて、本当にびっくりするぐらいお上手なのですが、ＡＩで作った資料もよかったです。これから皆さんどんどんＡＩを使っていくと思うのですけども、一方で、そのＡＩに頼るのではなくて、実際に自分が通っている道路のことを見て、その場で、あっと驚いたことを今日のプレゼンにつなげるというような、実際の自分の五感、感覚、実際に見たものがやはり人間の原動力になるのだということも分かったと思うのです。そういう皆さん一人一人の実体験ということをどんどん大切にしていただきたい。ＡＩを使いながらも、実体験を重視していただきたいということも私から申し上げたいと思います。

本日は、関係してくださった皆様方、そして中学生議員の皆様、本当に御苦労さまでした。ありがとうございました。

○当日発表資料　　第四中学校

武蔵野市立第四中学校

～武蔵野市内の中学校同士の交流についてと交通について～

田中　花　・　福山　由彩

学校対抗の盛り上がる行事の開催

- 中学校同士の交流が少ないと感じている
- 部活をやっていない人は、他校の人と喋る機会がない
- 武蔵野市の陸上競技場の利用

➔良いライバルになる。
仲良くなれるチャンスがあれば、もっと生活が充実し、楽しくなる。



小学生や中学生のムーバスの料金を半額に

- ムーバスは武蔵野市内だけのバスのため、小中学生の料金を半額に
- 武蔵野市の学生ということを証明すれば、決められた期間は無料などに
- ムーバスを活用する人が増える

➔ムーバスを活用する人が増えるため、赤字にはならないのではないか



自転車レーン、自転車歩行者専用道路の整備

- レーンや、自転車歩行者専用道路がある場所は、自転車で走りやすい。
- レーンがないと、自動車とぶつかる危険がある
- 歩道を走ると、歩行者とぶつかる危険がある

➔ 状況が変わった今だからこそ再度検討をお願いします。



道路交通の安全確保

- 中央通りの街路樹はきれいだが、信号や標識が見えなくなっているところがある
- 国土交通省の道路緑化技術基準の第3章

➔ 安全確保のため、対応をお願いします。



ご清聴ありがとうございました！

武蔵野市立第四中学校

田中　花　・　福山　由彩

○当日発表資料　　第五中学校

2026年8月16日

武蔵野市立第五中学校

永井大葵・富澤悠里江・藤井一輔

目次

01 学校遠足について
02 防災宿泊について
03 学校の土日開放について
04 ムーバスでの通学について
05 自転車通学について

01　学校遠足について





02　防災宿泊について

第五小学校での防災宿泊体験





武蔵野市立第五中学校

防災宿泊を行うことによって

・**「災害時に必要な行動」「協力することの大切さ」**を学ぶ
　→災害時に中学生が中心となり手伝うことができる

・夜の学校でしかできない活動をする
　→友達との交流が深まる・地域の団結力が上がる
　→**思い出作り**ができる

03 学校の土日開放について

新校舎



学校の自習室を使うことによって

・友達と勉強ができる
→楽しく学べる
→教え合うことで学習が身につく

・先生に勉強を教えてもらえる
→わからない問題の即時解決
→先生とコミュニケーションを取れる

新校舎



学校の校庭を使うことによって

・運動できる場所が増える
→運動能力の向上
→健康づくりの機会が増える

・デジタルデトックスにつながる
→健康促進に効果的

04 ムーバスでの通学について

運営上の課題と対策



・利用者が増加し混雑する
→登下校の時間帯に増便

・他の乗客への影響
→混雑状況を見ながら運行を調整

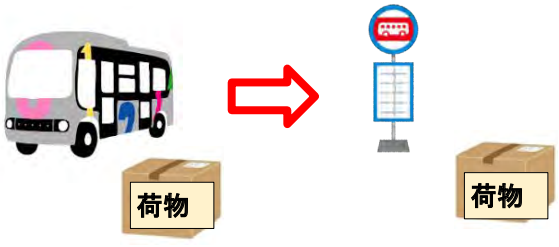
05 自転車通学について

生徒たちの課題と対策

・交通事故の危険性
→自転車講習会実施・ルールの設定

・自転車で重い荷物を運ぶ危険性
→ムーバスによる荷物運搬

仕組み



運営上の課題と対策



・運転手の負担
→荷物積み降ろしスタッフの配置

・作業時間が増えてしまう
→混雑する時間帯のみ実施

・荷物管理
→荷物ボックスの設置

2026年8月16日

武蔵野市立第五中学校

永井大葵・富澤悠里江・藤井一輔

○当日発表資料　　第一中学校

1.五日市街道の道幅拡張
2.ゆったり過ごせる給食時間

武蔵野市立第一中学校

1.五日市街道の道幅拡張



・道がせまい
・自転車が通りにくい
・事故の危険がある

↳<u>道を広くしてほしい！</u>
<u>自転車専用道路がほしい！</u>

テーマ設定の理由



自転車なんて通れない！！

自転車が通れるのはここだけ！！



藪原太郎議員提供

そのため自転車事故の割合が高い、、



出典　武蔵野市交通安全対策会議　第11次武蔵野市交通安全計画

改善案

・拡張した分を歩行者、自転車道路にする（分離歩道）



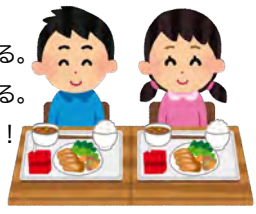
↑武蔵境の分離歩道

自転車も歩行者も安心！！



2.ゆったり過ごせる給食時間

適切な時間を確保することで、
・残飯を減らすことができる。
・糖尿病のリスクを抑えることができる。
・早食いのリスクを抑えることができる。
・みんなが給食を楽しむことができる！



実際にこんな声もあがっている！

「給食時間が短くて食べきれない！」

「前の授業が長かったり、教室移動があったりすると、どうしても時間が足りない！」

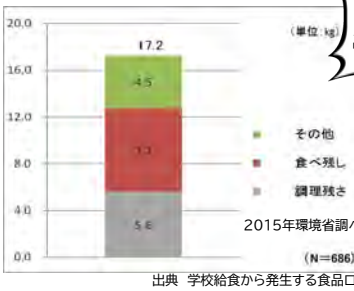
「早食いをしてお腹を下してしまった。」

・給食時間が足りていない人がいるから。
・早食いをする必要をなくしたいから。
・給食時間を楽しんでいる人を増やしたいから。



給食は大量に捨てられている！

残飯量は生徒一人あたり
年間7.1kg！





出典　学校給食から発生する食品ロス等の状況に関する調査結果について

給食時間の比較



45分(15～20分)

量は約1.4倍に！



30分(10～15分)

早食いにはこんな危険が隠れている！！

体格指数25以上を肥満としたとき、

「早食いの人」は「ゆっくり食べる人」より

糖尿病のリスクが1.61倍に！！



京都府立医科大学などの研究チームの研究

早食いにはこんな危険が隠れている！！

近年多発している早食いによる事故が多発している。

命に関わる重大な事故も発生している。



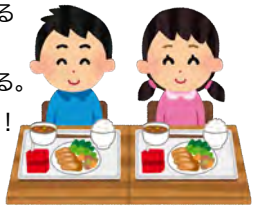
適切な時間が確保できると、

・残飯を減らすことができる。

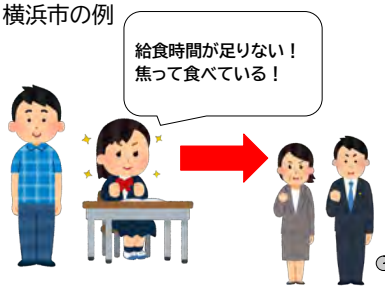
・若いうちから糖尿病のリスクを抑えることができる。

・早食いのリスクを抑えることができる。

・みんなが給食を楽しむことができる！



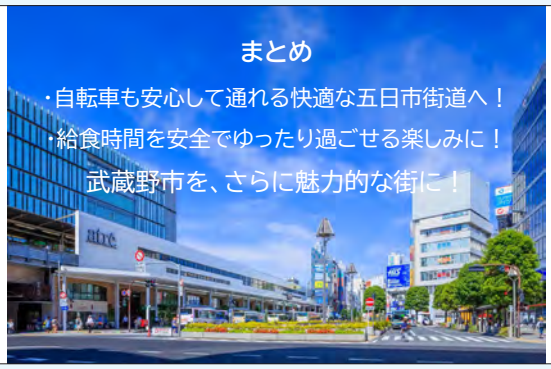
横浜市の例



横浜市

喫食時間は**20分程度**は確保する！

現在、さらに25分程度の時間確保に向け、各校への働きかけを続けている。



○当日発表資料　　第三中学校

武蔵野市立第三中学校

1. 校庭への照明設置
2. 中学生以上のボール遊びができる公園
3. 女子大通りの歩道の拡張

1．校庭への照明設置

	平日の活動時間
夏	16時～18時
冬	16時～17時

冬には日没時間が早いため外部活の活動時間が減ってしまう



冬になると周りが見えず怪我をする恐れがある

☆課題

学校の周りは住宅街

⇓照明をつけると

近所の人の迷惑に





☆解決策

・消灯時間を設定する。
・住宅に光が当たらないように照明を設置する。
など

2．中学生以上のボール遊びができる公園

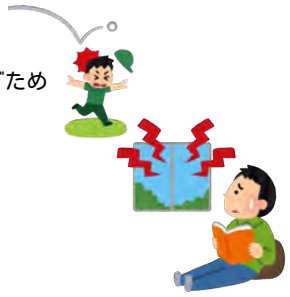




少ない！！

☆考えられる理由

・他の利用者とのトラブルを防ぐため
・事故防止
・騒音



3.女子大通りの歩道の拡張

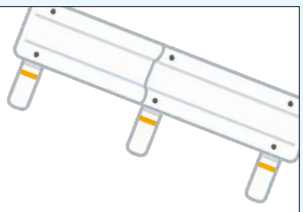
・学校の登下校などで道を通る際道が狭く危険が多い
・雨の日など傘をさしているときは一人でも通りにくい

⇩

・車道の端を通る自転車との接触事故
・ガードレールがなく段差になっているので踏み外した際の車と衝突事故
などの危険が考えられる。



女子大通り



・考えられる課題

・女子大通り沿いの住民への許可が必要。

⇩

・解決策

・住民の方が納得する範囲で拡張を行う
・道を通りやすくする工夫をする（歩道と車道の段差をなくしガードレールにするなど）

○当日発表資料　　第二中学校

武蔵野市立第二中学校

安心な通学路に

古賀



出典：Google Maps（航空写真）



出典：発表者撮影



引用：JAF（日本自動車連盟）



引用：JAF（日本自動車連盟）



出典：発表者作成（画像生成AI）

解決策　1



引用：Travel Stack Exchange

解決策　2



出典：発表者作成
（画像生成AI）

解決策　3



出典：発表者作成
（画像生成AI）

バスケットコート設置について
藤本

現状

現在武蔵野市には大人数で使えるバスケコートが数えるほどしかありません



具体的な例

実際に川崎市では地域活性化のためにバスケコートを設置するという取り組みが行われていました。そして現在数多くのバスケコートが設置されきています。





仮運用後の利用者の意見

- 近所にバスケットゴールのある公園が無いので継続して利用したい。
- バスケットを通してコミュニケーションが取れる。
- プロを夢見て頑張りたい。

出典：川崎市ホームページ

しかし問題点も多々あります

その対策として

バスケコートを作る条件を作る必要があります
①管理面積2,000㎡以上
②広場と隣接住宅との距離100m以上or高低差あり
③高架下、線路や幹線道路に隣接している
④トイレがある
などの条件を定めています

出典：川崎市ホームページ

管理面積管理面積 2,000㎡以上

こうちゃん公園
中央高架下公園
古瀬公園
本村公園
みやび青山公園
第二しろがね公園
久保公園
野鳥の森公園
北町子ども広場
千川上水遊歩道
さかい西公園
西久保公園
むさしの市民公園
上水南公園
緑町ふれあい広場
第三しろがね公園
本田東公園
関前公園
東町公園
千川緑地
市民の森公園
グリーンパーク緑地
吉祥寺西公園
はなもみじ
境山野緑地
農業ふれあい公園
中央通りさくら並木公園
境南ふれあい広場公園
境南中央公園
南町苗木畑公園
境山野公園
グリーンパーク遊歩道

出典：武蔵野市
ホームページ



出典：ALLDAY 5ON5 BASKETBALL TOURNAMENT オフィシャルビジュアル

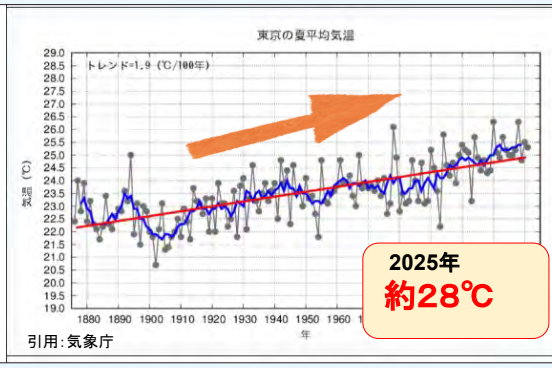
都立武蔵野中央公園





暑さ対策インフラについて

岡本



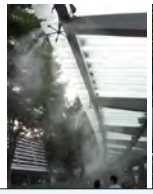
引用：気象庁





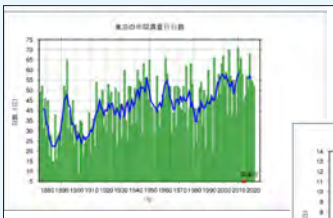
校庭
&
テニス
コート
一部

⇑日除けシェード

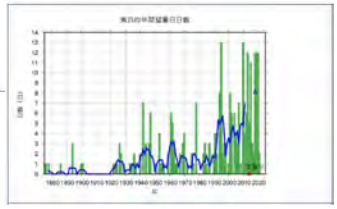


ドライミスト⇒





❌休み時間に校庭で遊ぶ
❌屋外の部活動



年々　増加

引用：気象庁

日除けシェード



体感温度
約 7℃～10℃ ⇓



ドライミスト



・体感温度
最大 4℃ ⇓

・熱中症予防

・グリーンカーテン の管理
・日除けシェード 周辺の掃除
・毎日の温度の記録　　など

⇒委員会活動・係活動

『市民参加と自治 』
『ゼロカーボンシティ 』の実現　につながる

【日除けシェード・ドライミスト
などの暑さ対策インフラの導入】

1.生徒の学び、遊びの機会を
減らさないため
2.自分ごととして 環境を守る

ご清聴ありがとうございました



○当日発表資料　　第六中学校

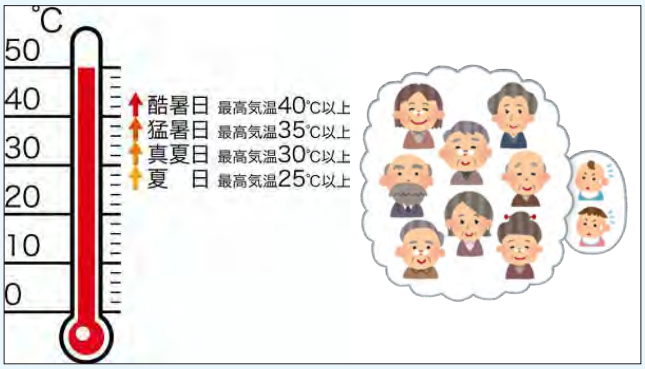
武蔵野市立第六中学校
提案書

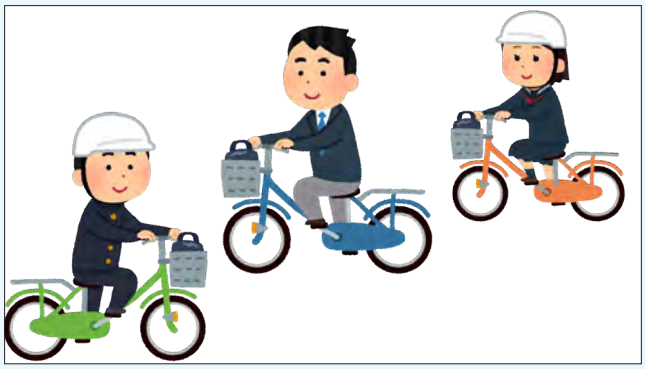
青木俊二　鈴木琢斗











状況

私の学校には松葉杖をついて階段を登っている先生がいます。

提案

私たちから提案するバリアフリーの例はスロープです。

スロープ



スロープのメリット　デメリット

◎メリット

・怪我した人はもちろんだがスポーツ中のけがをしたとき車椅子を簡単に利用できるようになる。

・重い荷物をキャスター付きの台車を使って学校に運び入れることができる。

◎デメリット

・費用がかかる。

・工事に時間がかかる。

デメリットの解決法

◎1つ目のデメリット費用について

昇降口や保健室の近くなど優先度の高いところをやる。その後は生徒や先生にどこから設置していくかを検討していく。

◎2つ目のデメリット時間について

1つ目同様優先順位を決めて進めていくことで時間は節約できる。

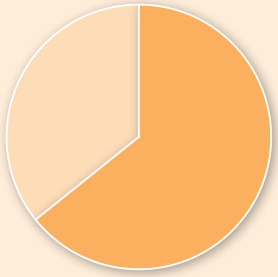
誰でも安心して通える学校とは

私は誰もが安心して通える学校とは困っている人が特別な思いをしなくても生活できる学校だと思います。そのためぜひこの案を検討してください。

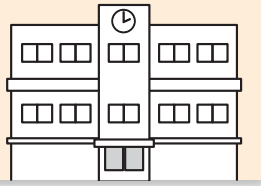
ご清聴ありがとうございました。

アンケート結果 参加中学生アンケート回答

今回の中学生議会に参加した理由を教えてください

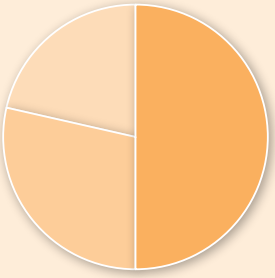


- 先生勧められたから…… 9人
- 興味があったから …… 5人



第１回、第２回ミーティングについて

①議会クイズで武蔵野市議会について理解が深まりましたか

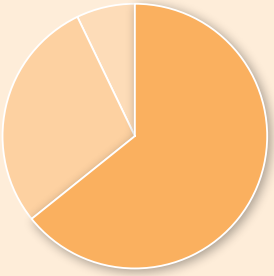


- 大変深まった…… 7人
- 深まった…… 4人
- まあまあ理解できた …… 3人



第１回、第２回ミーティングについて

②テーマや内容に関する話し合いについて、時間は十分でしたか

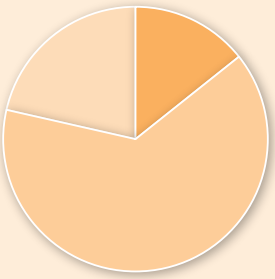


- ちょうどよかった…… 9人
- 少し足りなかった…… 4人
- 全然足りなかった…… 1人

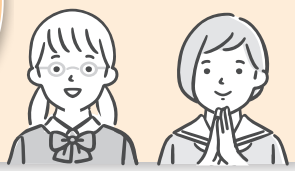


第１回、第２回ミーティングについて

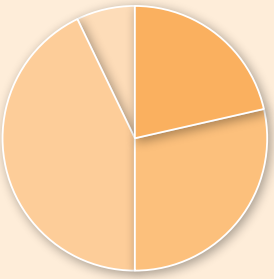
③他の学校とは交流ができましたか



- 交流できた…… 2人
- 少し交流できた…… 9人
- 全く交流できなかった… 3人



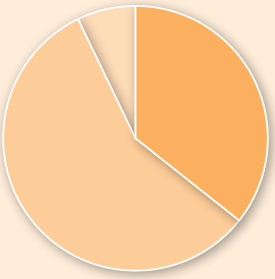
本番のプレゼンは満足できるものでしたか



- 大変満足できた…… 3人
- 満足できた…… 4人
- まあまあ満足できた…… 6人
- あまり満足できなかった……1人



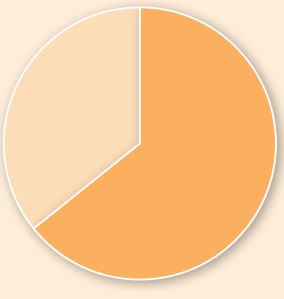
今回の中学生議会に参加して、市議会への興味・関心が以前に比べてどうなりましたか



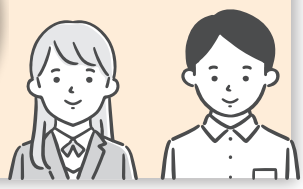
- 大変高まった…… 5人
- 高まった…… 8人
- まあまあ高まった …… 1人



今後も機会があれば、中学生議会に参加したいですか



- 参加したい…… 9人
- 検討する…… 5人





今後の中学生議会に対するご意見・ご要望を回答ください（自由記載）

- ポスターがもう少しラフでもいいなと思った。
- 議会の知識がついて、とても良い機会となりました。学校のプレゼンと異なり、緊張しましたが、提案をすることの大変さや大切さがわかりました。
- 打ち合わせなどでは、他学校との意見の交流があったが、本番ではなかった。本番でも意見を深め合うことをした方がいいと思った。
- 本日はこのような貴重な機会を与えてくださりありがとうございました。
  このような「中学生議会」という、学生ならではの見方や考え方を市議会に伝え、市がよりよくなるための活動は今後も続けていってほしいと思います。
- 今回の中学生議会では、自分の積極性が足りなかったのもあるけれど、他の学校の生徒と交流することが少なく感じました。そのため、お互いにより良い発表をするためにも、他校との交流時間を取ると良いと感じました。
- このような貴重な機会を設けてくださり、ありがとうございました。中学生が意見を直接述べることができる中学生議会のような場を、これからも大切にしていってほしいです。
- 今回の中学生議会は、話し合いも上手くいき、日程や時間なども丁度良かったので、
  このまま同じような形で来年も続けてほしいです。
- 関係ない生徒もたくさんいるので、たくさん認知されるように
  なってほしいと思います。
- 今のままで良いと思います。
  僕はこういう活動が好きなので、もっとこういうことをしていきたいです。



市議会に対するご意見・ご要望を回答ください（自由記載）

- 市議会の傍聴の方法やアクセスについての広報があると良いと思った。市役所一階に市議会の議案や今の状況などがリアルタイムに画面などに表示されればよいと思った。もう少し詳しく市議会議員の情報が発信されていると嬉しい。
- 今回の提案をなるべく実現してほしいです。
- 最近、他市の市議会議員の問題がニュースなどでよく聞かれるが、武蔵野市の市議会議員の方々はとても優しく、こういう場を開いてくれる市に対して愛が強いと思った
- 第一回目のミーティングでは、緊張してうまく意見を伝えられなかったのですが、時間を重ねるにつれ会話が増えていき、最終的には本日このような大変満足のいく議論をできてよかったです。
  市議会に対しての興味がより深まったので、また今度議論を見に行きたいと思います。
  本日は本当にありがとうございました。
- 今日中学生から出た意見を実現に向けて動いてくださると嬉しいです。ありがとうございました。
- 今回出た提案を、ぜひ検討してほしいです！
- ありがとうございました。
- とても丁寧に接してくれてとても活動しやすかったです。
- いつも色々ありがとうございます。
  今後も市のことをよろしくお願いします。



アンケート結果

傍聴者アンケート回答

中学生が今どのような要望や問題意識を持っているのか、具体的に知る良い機会となりました。議員の皆様の答弁も、どのようなアプローチがあるのか、なぜ実現が難しいのかを背景を含めて丁寧に説明されており、非常に学びの多い時間でした。未来の武蔵野市を担う若者と市政がつながる、大変有意義な議会だと感じました。

提案に対する答弁はもっともなのですが、中学生の立場からすると後ろ向きに感じてしまわないか老婆心ながら懸念しました。実効性を高めるような提案検討のフレームワークかチェックポイントなどを教えてあげるのも一案かと思いました。

中学生が一生懸命考えた意見について、議員の方が真摯に受け止めて、時に厳しく回答されており、子どもたちにとって大変貴重な機会だったと思います。

武蔵野市の将来を担う方のご意見を聞くことができ、市の職員としてとても有意義な時間となりました。

このような取組みを継続している武蔵野市議会の姿勢は素晴らしいと思います。

ただ、学校生活における意見が多いのが気になりました。

市議会として扱うことなのか、学校内で話し合うことなのか整理が必要だと思います。

議員の答弁も生徒会を中心に校長先生たちと話し合うよう回答していましたが、その通りだと思います。

市立中学校の生徒だけが議員役になっている点も気になりました。

市議会における一般質問であれば、市政全般を扱うべきですし、私立や都立の中学生の市政に対する意見も聞くべきだと思いました。

中学生議会は今後も継続するとの発言があり、安心しました。

次回の実施も期待しています。

まず、大人でも緊張する雰囲気の中、皆さん堂々と立派な態度で意見を述べられていたのに感心しました。日常生活の中の素直な視点から出てきた意見を、一生懸命考え、近隣住民への配慮までしながら自分なりの具体的な提案にしていて、思っていた以上の内容でした。資料作成やプレゼンの仕方も、慣れているのか練習の成果か、とても聞きやすく、中学生でここまでできるのだなと驚きました。

答弁の方も、わかりやすく話はするものの、あまり子ども扱いをしない感じがよかったと思います。

このような場に足を運ばせていただけたこと、誠に感謝いたします。中学生という段階で実際の議員と触れる機会があること、発表方法や議会の作法などを知れること、武蔵野市の学生は非常に恵まれているなと感じました。このような学生への事業がたくさんある武蔵野市でどのように主権者としての児童・生徒が育てられているのかを今後も研究していきます。



初めて、中学生議会を傍聴しました。
各中学生の質問がとても興味深く、なるほどと思うものが少なくなかったです。
中学生が自転車通学を希望していること、交通への懸念などは考えさせられました。
とても良い会だとおもいました。
ありがとうございました。

生徒たちの切実な声を聴けて、本当に参考になりました。
こうした声をどう活かしていくか、形にしていくかは未来に向けた重要な課題と認識しました。

実際に議会で使われている本会議場で、自分達の提案を発言し、市議の方から意見をいただくという貴重な体験は、今後の生活の中で必ず力となると思います。
準備段階から市議の皆さま、市役所の皆さま等、ご尽力ありがとうございました。

市立校だけでなく、私立校の生徒会に参加を呼びかけ、より多くの中学生が関わる機会になると良いなと思います。
中学生に関わるポイントに絞って予算議決権なども付与できる取り組みに発展することを期待します。

中学生の提案を市議会が取り上げ、実際の議会にも役立てている点が素晴らしいと思った。中学生の提案は似かよった内容が多い。提案分野にバリエーションができるように調整した方が良いのでは？中学生ならではの切り込みがもっとあってよいのではと思う。
中学生の回答をていねいに作成している点はとても良いと思った。
回答の中に財源の話、お金がないからできないという回答がない点がよかった。

中学生がしっかりとした質問をされていて、心強い限りです。答弁された議員の皆さんも丁寧な対応されていて、中学生にとって良い経験になったものと思いました。

中学生に貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
市議の皆様が中学生の意見に真剣に答弁されており、子どもたちもとても勉強になったのではと感じました。
可能なものは是非市政にもご反映いただければと思います。

中学生らしい提案にも真剣に答弁いただき、親としてはとても有意義な時間を持つことができ、大変ありがたく思いました。



第１回 ミーティング

令和８年５月27日（水曜日） 議会委員会室

〇議会運営委員会委員の自己紹介
〇中学生議会の趣旨説明
〇 Gikai クイズ
〇中学生議員の自己紹介
〇グループワーク
　学校ごとにプレゼンテーマの検討、他校との意見交換







Gikai クイズで
議会のことがもっと
わかった！













中学生ならではの
アイデアがたくさん！



















真剣に考え、
仲間と意見を交わす
中学生議員たち





第２回 ミーティング

令和８年７月８日（水曜日） 議会委員会室

○グループワーク
学校ごとに発表テーマ決定
発表資料作成









テーマを決定
「この提案を
実現させたい！」

















資料作成
「わかりやすく
伝えるには？」









学校ごとに
テーマを発表











当日の様子

令和８年８月16日（日）
武蔵野市本会議場







リハーサルで
高まる緊張











本会議場で
政策提言！

















本番を終えて、
ほっと一息。
充実した時間でした

令和８年度　武蔵野市中学生議会 会議録

令和８年 11 月発行

発行者　　武蔵野市議会

180-8777　武蔵野市緑町 2-2-28